

## 「閑院宮載仁親王日記」大正十年（前半）

梶田明宏  
内藤一成  
白政晶子

## 「載仁親王日記」発見の経緯について

「載仁親王日記」は現在、神奈川県立小田原高等学校同窓会（以下、同窓会）が所蔵している。小田原高等学校は小田原藩の藩校集成館の流れを汲み、明治三十三年（一九〇〇）に神奈川県第二中学校として創設された伝統校である。載仁親王の第二男子（長子篤仁王は夭逝）である春仁王（のち閑院純仁）が大正五年（一九一六）に同校（当時は小田原中学校）に入学し、同十年に卒業、戦後は小田原に住み続けた。こうした関係から同窓会には、純仁氏や氏の妹戸田華子氏（載仁親王第五女子）によって、春仁王の在学時代を中心に日記や原稿など約百点の資料が寄贈されている。なお同窓会は所蔵資料を人物や内容ごとではなく、明治・大正・昭和戦前というように時期によって分類していることから閑院宮関係の資料も分散した状態で保管されている。

平成二十五年三月、内藤・白政が同窓会において閑院宮関係の資料を調査したところ、春仁王のものと思われる大正五年から十年の日記七冊のうち、大正十年だけは二冊あり、うち一冊は明らかに他の日記とは筆跡が異なっていた。疑問を抱いた両名はさらに詳細に検討したところ、内容からこれが載仁

親王の日記であることが判明した。

今回発見された「載仁親王日記」は博文館発行の『大正十年当用日記』にペンまたは鉛筆によって記されている。日々丹念に書き綴られており、記載のない日は無かった。さらに調べると巻末の補遺や住所人名録欄を用いて大正十一年分の日記も記されていたことが判明した。すなわち本日記は二年分のものであった。なぜ春仁王関係の資料の中に一冊だけ載仁親王の日記が含まれていたのかについては判然としないが、これまで存否未詳であった日記が発見されたことの意義は小さくない。

（内藤一成・白政晶子）

## 載仁親王の履歴と大正十年の日記について

今回翻刻するのは、日本の近代皇族の中で歴史的に大きな足跡を残した一人である閑院宮載仁親王の日記のうち、大正十年の前半部分である。この年は、将来天皇になるべき皇太子裕仁親王が半年にわたる欧洲巡遊を行い、帰朝後、大正天皇の病気のため摂政に就任した、皇室にとっても重要な年であり、その中で載仁親王は、皇太子の外遊に随伴して補佐するという、大きな役割を果たした。

まず、載仁親王の経歴を見てみよう。親王は慶応元年（一八六五）九月二十二日、伏見宮邦家親王の第十四男子として誕生、幼名は易宮<sup>やす</sup>と称した。明治五年（一八七二）四親王家の一つである閑院宮を相続し、十一年、載仁の名を賜り、親王宣下を受けた。十年陸軍幼年学校に入校。十五年九月、同校卒業に際し、自費でのフランス留学を願い出て許され、十月十二日横浜を出港した。以後の親王の主要経歴は以下の通り。

8年 元帥  
10年 皇太子欧洲御巡遊に随伴  
昭和元年 大喪使総裁  
2年 大礼使総裁  
6年 参謀総長（〜15年）  
20年 薨去

明治18年 サンシール陸軍士官学校入校

20年 同校卒業。陸軍騎兵少尉。ソミュール騎兵学校入校

21年 同校卒業。ツール第七騎兵聯隊附

23年 フランス陸軍大学校入校。陸軍騎兵中尉

24年 同校退校、帰朝。三条実美二女智恵子と結婚

25年 陸軍騎兵大尉。陸軍士官学校教官

26年 騎兵第一大隊中隊長

27年 日清戦争に際し第一軍司令部附として出征

30年 陸軍騎兵中佐。騎兵第一聯隊長

33年 参謀本部部員。パリ万国博覧会視察のため欧洲差遣

34年 陸軍少将。騎兵第二旅団長

37年 日露戦争に出征。陸軍中將

39年 第一師団長

44年 近衛師団長

大正元年 陸軍大将。軍事参議官

5年 ロシアへ差遣

以上の経歴に見るように、親王は陸軍軍人として元帥まで累進した経歴を持つ。中でも、満州事変から支那事変にかけての時期に参謀総長を勤めたことについて、一般の関心は高いと思われるが、今回はその時期の日記は発見されていない。

大正十年に皇太子海外巡遊の随伴を勤めた理由として注目すべきは、日本陸軍の正規の教育課程は陸軍幼年学校のみで、以後はフランスにおいて軍人としての教育を受けたことであろう（満年齢で十七歳から二十六歳までの九年間で、このことは日記の文体にも影響している）。

子息の閑院純仁（臣籍降下前は「春仁王」）は「こういうことから、父は非常にフランス好きであった。またフランス語に堪能で、外人との交際もあか抜けていた」「また、フランス大統領カルノー氏はじめ、陸軍将官らの知遇をうけたようである」などと記している（『私の自叙伝』）。

皇太子裕仁親王の欧洲巡遊は、東宮御学問所という、閉鎖された空間での教育を受けていた皇太子が、海外の実情を実際に見聞し、海外の君主・元首・要人と接する実地体験の場であった。

その補佐役として載仁親王は抜擢された。当時五十代後半でフランス語に

堪能であり、社交性も有し、フランス陸軍を中心に外国要人に人脈もあつた親王はまさに適任であつた。単に西欧に関する知識・経験だけでなく、さまざまな公式・非公式の場において、皇族としていかに振る舞うべきか、皇太子を教育するにふさわしい経験を有していた。兄伏見宮貞愛親王は皇族中の重鎮であつたものの六十代の高齢、弟の東伏見宮依仁親王は海外経験はあつたものの必ずしも身体頑健とはいえず、実際に、当時他に適任と思われる皇族がいなかつたことも事実である。

今回翻刻した部分は、三月三日、皇太子に随伴して横浜を出港する以前の国内での記述と、以後の海外での記述に大きく分けられる。

まず、前半においては、載仁親王の家族構成、及び皇族あるいは軍人としての人間関係が浮かび上がってくる。大正十年時点の親王の家族・親族関係を簡単に説明すると、妃の智恵子は故公爵三条実美の二女で、長女恭子は子爵安藤信昭に、二女茂子は侯爵黒田長成の嗣子長礼に嫁し、他の子供として嗣子の春仁王と寛子・華子の二女子があつた。春仁王は健康上の理由から学習院初等学科を中退して以来小田原の別邸にて生活し、この三月に小田原中を卒業し、軍事予備教育を受けた後、士官候補生として陸軍に入る予定であつた。春仁王の進路にとって重要な時期に日本を離れることが親王にとって最も気がかりであつたようで、士官学校予科長・教官など托すべき軍人ととの面会の記述がしばしば見られる。

皇族関係では、皇太子外遊の随伴の内示があつた際、まず伏見宮貞愛親王に相談しようとしたことから、皇族中の最長老としての貞愛親王の立場をうかがうことができる。また、日記の中でもっとも多く登場するのが賀陽宮恒憲王である。恒憲王は前年陸軍士官学校を卒業し、この年の一月姫路の騎兵

第十聯隊から、東京の騎兵第一聯隊に転属となつた。恒憲王は載仁親王の兄朝彦親王の孫にあたる。恒憲王に関し、陸軍大臣はじめ関係者との面会の記述がしばしば見られることから、親王は恒憲王の陸軍内での保護者的立場にあつたことがうかがえる。

皇太子洋行に関しては、一月二十二日に宮内大臣よりその決定と随伴の依頼を受けるまでは全く記述は見られないが、おそらく何らかの動きは耳にしていたであろうし、自分がその任に当たるとは予想していたのであろう。日記では驚くこともなく、即座に引き受けている。

しかし、輔導の責務は重大で、その後は関係者との面談や連絡は頻繁となり、歐洲の現状などについての情報収集も熱心に行っている。中でも元老山県有朋と懇談するなど、皇太子洋行に元老が深く関わっていることがうかがわれ、特に西園寺公望が具体的な計画策定に直接参加していることが注目される。

三月三日の外遊出発後については、親王はほとんど皇太子と行動を共にしているので、当時の記録である『皇太子殿下海外御巡遊日誌』（大正十二年、宮内省）『皇太子殿下御外遊記』（大正十三年、毎日新聞社）、あるいは供奉員の日記『侍従武官長奈良武次日記・回顧録』（平成十二年、柏書房）『海軍の外交官竹下勇日記』（平成十年、芙蓉書房出版）などを併せれば、より深く理解できよう。外遊時の日記の内容は、載仁親王自身の行動と見聞の記録となつている。

皇太子御外遊の主な供奉員は供奉長の宮内省御用掛珍田捨巳・侍従武官長奈良武次・東宮侍従長入江為守はじめ西園寺八郎・山本信次郎・澤田節三・二荒芳徳ほかで、載仁親王には御附武官の福田義弥、宮家職員松井修徳、

平田輝吉が随行した。一行は御召艦香取、旗艦鹿島からなる第三艦隊にて出発、途中沖繩、香港、シンガポール、セイロン、ポートサイド（エジプト）、マルタ、ジブラルタルに立ち寄り、英国南部のポーツマスに到着した。この間で目につく記事は皇太子への「御注意」（四月五日、十四日、五月六日）や礼儀作法の講話（五月四日、五日）であろう。類似の記事は『奈良武次日記』『竹下勇日記』にも見られ、親王や供奉員が、皇太子の儀礼面での教育に苦心していたことを垣間見ることができる。

英国上陸後は、最初は王室の賓客としてバッキンガム宮殿に宿泊し、ついで政府の賓客としてロンドン及び周辺各所を視察、その後はスコットランド、マンチェスターなどを廻り、再びロンドンに戻る。親王は淡々と見聞を記しているが、馬や騎兵に関心があることが随所にうかがわれる。

次はフランスで、五月三十一日パリに到着する。フランスでは馴染みの店で洋服や軍服、靴などを新調したり、各所で知己の人物に出会うなど、かつて長年留学した地であることを感じさせる。一行はパリおよび周辺を見学した後、六月十日から二十日にかけてベルギー、オランダを訪問し、再びパリに戻る。ベルギーでは、イープル、ルーヴェンなどの戦跡を視察したが、六月下旬にはベルダン、ソンムなどのフランス戦跡を視察した。親王はベルダンでの悲惨な見聞を日記に書き残しているが（二十五日）、ソンムではその惨状に圧倒されたのか、巡視した各所の地名をひたすら綴るのみであった（二十九日）。

以上が一月から六月までの載仁親王日記の概要である。七月から十二月までの日記は、改めて翻刻紹介する予定である。

（梶田明宏）

## 「載仁親王日記」大正十年一月～六月

### 【凡例】

一、この史料は神奈川県立小田原高等学校同窓会が所蔵する閑院宮載仁親王の日記のうち、博文館の当用日記に記された大正十年一月一日から六月三十日までを翻刻するものである。

一、漢字は原則として常用字体を用いた。

一、原文の仮名は片仮名であるが、外国人名・地名等が頻出するため、これらを除き一般の仮名は平仮名に変えた。

一、句読点・並列点は適宜補った。

一、日記帳の「予記」欄などに記された情報は、日付・曜日の下に記した。

一、註は、傍注と各日毎の註を併用した。傍注は（ ）にて表記した。日毎の註は\*にて示した。その他本文中内の註記は「 」とした。

一、外国人名・地名など現在の一般的な発音表記と大きく異なる場合は、註記した。

一、親王が誤って覚え込んでいると思われる漢字は、正しい漢字に置き換えた。

（例「香島」↓「鹿島」、「鳥井坂」↓「鳥居坂」など）

一、右のほか、文中の名辞・表現・評価などにおいては不適切な表現もあるかもしれないが、歴史資料であることを考慮し、すべて原文のままとした。

一月一日 土曜 快晴

午前六時起床、七時半より食事。祝の雑煮を為す。此年は両陛下葉山へ去年の末より御転地に付き、新年の拝賀なし。故に今日、正装をなさず。

余始め皆な健康なり。

御祝電を葉山へ出す。

寛子、華子は午前十時過ぎより学校の式に行く。午后庭の社に参拝す。

一月二日 日曜 曇 午前中雨 午后曇

午前中は何にもなし。

午後二時稍前より正装にて東宮御所へ新年の為め行く。

安藤子正午過に來り。年玉を持來る。

\*子爵安藤信昭。夫人恭子は載仁親王の第一女子

一月三日 月曜 曇

元始祭に付き余のみ賢所。午前九時半より行く。

午後二時より皇子御殿、澄宮御殿へ新年に行き、帰途に総理、陸軍大臣、宮内大臣官邸へ行く。

春仁、寛子、華子、午後十二時五十五分發にて小田原へ行く。

保利を呼<sup>\*1</sup>ひ、幸子<sup>\*2</sup>の目をみせる。

\*1保利真直（陸軍軍医監・侍医寮御用掛） \*2侯爵黒田長成の娘

一月四日 火曜 曇

午後三時より安藤夫婦、黒田夫婦來る。新年の為めなり。祝の膳を出す。

\*侯爵黒田長成の嗣子長礼、夫人茂子は載仁親王第二女子

一月五日 水曜 曇后晴

例年の如く新年宴会あり。余も列席す。陛下は葉山に御滞在に付き出御なく、

東宮殿下のみ御臨席ありたり。

昨夕遅く仏国東久邇宮より新年の電報來り。今朝之れを見る。返電を送る。

智恵子は午後一時四十分より鳥居坂三条家へ行く。一時間の后帰る。

\*三条公爵家。載仁親王妃智恵子は三条実美二女

一月六日 木曜 晴

午前八時十五分、東京駅發にて余は葉山に行き、新年に付き両陛下下拝謁して

御祝儀申上く。同十一時二十二分逗子發にて帰京。午後一時着。

本日は東宮殿下並に他の三殿下も午前九時十五分品川發にて葉山へ御成あり。

御用邸にて各殿下に拝謁せり。

陸軍始め觀兵式の予行ありたり。

一月七日 金曜 晴一時曇る

小田原より寛子、華子。午後二時二十分の汽車にて帰京。

今朝七草の粥を食す。

午后に家職の夫人（平田、千国、遠藤、里）四人來り。智恵子に面謁す。

\*平田輝吉・千国四郎・遠藤忠太郎（いずれも閑院宮屬）及び里国啓（閑院宮雇員）の夫人

一月八日 土曜 晴

陸軍始觀兵式あり。東宮、御名代として御臨場。余も参列す。午前十時に始

まり、約一時間にて終る。同十一時半帰る。

正午に三条治子様を新年の為め呼<sup>\*1</sup>ひ、昼食を為す。一時半過ぎ帰る。

大森夫人來り。智恵子に面会す。

本日より女子学習院始まり、二人午前九時より学校に行く。

\*1三条実美夫人 \*2大森齡子（皇后宮大夫男爵大森鍾一の夫人）

一月九日 日曜 晴

午後一時過ぎより兩人にて安藤家へ新年に付き行き、同四時半帰る。

一月十日 月曜 晴

正午、赤十字社に於て今回万国赤十字聯合会議に出席する桑田理事<sup>\*</sup>の爲め送別会あり。余も出席す。

午後二時、兩人にて新年の爲め黒田家へ行く。

<sup>\*</sup>桑田熊蔵（日本赤十字社理事）

一月十一日 火曜 曇 小雨 夕刻より晴

本日は英照皇太后陛下の御例祭日なるも、今年よりは掌典部のみの御祭となり、賢所に行かぬこととなる。

東宮殿下沼津へ御転地なる。

一月十二日 水曜 晴

午後一時過ぎより兩人にて橋場の三条治子へ新年に行き、同四時頃帰る。

春仁へ腕時計、寛子、華子へ懐中時計を贈る。

賀陽宮午後八時二十五分着にて着京す。途中浜松駅の手前にて同列車に発砲<sup>\*</sup>せる者ありて、賀陽宮の椅子の後のガラスを破りたり。但し其時宮は他の室に至り。故に無事でありしなり。

<sup>\*</sup>この日賀陽宮恒憲王が乗つた東海道線上り特急列車が、浜松付近にて何者かに銃撃され、

賀陽宮の搭乗する展望車の窓ガラスが割れるという事件が起こつた。付近在住の木版職工がすぐに逮捕されたが、電線上の雀を猟銃で撃とうとして誤つて発砲したことが判明し、銃砲

火薬取締規則違反として罰金刑に処せられた。なお恒憲王は陸軍騎兵少尉、この月騎兵第一

聯隊附となる

一月十三日 木曜 曇寒し

<sup>\*</sup>磯谷賀陽宮事務官来り。賀陽宮よりとて反物と金十五円を持ち来る。東京へ

転任其他色々のことに付き余に御礼の爲めなり。

<sup>\*</sup>磯谷熊之助

一月十四日 金曜 雨（東京）曇（小田原）小田原行

午後零時五十分発にて兩人小田原へ行く。

春仁は去る十一日来風気のみみにて、寒稽古を中止す。

春仁へ腕時計を贈る。

一月十五日 土曜 快晴 小田原滞在

午前、午后に建築を見に行く。午后は智恵子も来る。

一月十六日 日曜 晴 小田原滞在

特筆すべき件なし。

一月十七日 月曜 晴 寒くなる

特筆すべき件なし。

一月十八日 火曜 晴 寒し

毎朝の如く松井<sup>\*1</sup>来り、去る十六日マスクスレンガ出たと申来る。午后、松井帰京す。

清浦子<sup>\*2</sup>来り。蚕糸会々頭の件と高知行三月の件。但し高知行中止。

Le 16 de ce mois<sup>\*3</sup>

<sup>\*1</sup>松井修徳（閑院宮事務官） <sup>\*2</sup>清浦奎吾（大日本蚕糸会会頭）、載仁親王は同会の総裁を務める <sup>\*3</sup>「その月の十六日」の意味で、前行の高知行きの予定日か

一月十九日 水曜 曇 夜中雨

午後二時二十分、小田原発にて兩人帰京。

一昨日来余は少々風気。

滞在中は春仁風気の故に夕食は浩養閣<sup>\*</sup>にてせず。

\* 閑院宮小田原別邸内の建物

一月二十日 木曜 晴

午前十一時より大臣邸に於て会議。来月中旬より特命検閲施行に付きてなり。  
午後二時過ぎ帰る。

智恵子は愛国婦人会新年の為め偕行社に午後一時半より行き、同四時頃帰る。

一月二十一日 金曜 晴

午後一時稍前より赤十字社に智恵子。新年の篤志看護婦人会の為め出席して、同四時頃帰る。

一月二十二日 土曜 晴 西北風強

午後\* 中村雄次郎に中村宮内大臣来り、東宮御欧行の件決定せりと申来。付ては余に同行の事を申す。余は御受申すと答ふ。御出発は海上の渡合により二月下旬と申ことなり。

\* 中村雄次郎

一月二十三日 日曜 晴

今朝\* 伏見宮貞愛親王。銚子に別邸がある伏見宮へ行き、昨日の件を御相談申考へなりしも、昨日既に銚子へ御出発相なりたりとて、面会でござるなり。

\* 伏見宮貞愛親王。銚子に別邸がある

一月二十四日 月曜 晴

正午に安藤夫婦、黒田夫婦を呼び、今回余の東宮殿下と共に欧米へ出張の件を話せり。食事を為す。

一月二十五日 火曜 晴 積雲

特筆すべき件なし。

一月二十六日 水曜 晴 夕刻より夜中西北風強

午後一時より参謀本部にて永井大佐\* 仏国より帰朝の仏国軍に付き講話あり。出席す。

\* 永井来(元フランス大使館附武官、陸軍歩兵大佐)

一月二十七日 木曜 晴 欧洲へ出張の御内沙汰

午前十一時より、来月より施行の特命検閲に付き宮中に於て軍事参議官会議あり。列席す。正午前帰る。

午後二時、\* 浜尾新浜尾男東宮大夫来り。色々と東宮御欧行に付き談話あり。

三時半頃宮内大臣中村男来り、両陛下には今回東宮御洋行に余の随行を御沙汰あらせらるることを伝ふ。

\* 浜尾新

一月二十八日 金曜 晴

特筆すべき件なし。

一月二十九日 土曜 晴

午前九時五十分、東京駅発にて葉山に行き、両陛下の御機嫌伺並に今回東宮殿下御洋行に付き、御供拝命の御札を申上く。陛下昨日来少々腫物にて御痛に付き、御会食なし。拝領物は例の如し。澄宮様に御会して、帰途東伏見宮邸へ立寄りて午後三時九分発にて帰京す。献上品は陛下へは三越の色々の御菓子、皇后陛下へは大膳の御菓子、澄宮へは御もちや等なり。智恵子は神経痛の為め不参。

松井、\*1福田、\*2竹内。

\*1 福田義弥(載仁親王附武官、陸軍騎兵大佐) \*2 竹内二郎太(閑院宮属)

一月三十日 日曜 晴

孝明天皇祭に付き、賢所へ参拝す。

午後茂子小供<sup>\*1</sup>二人と来り。夕食して帰る。

\* 黒田幸子、黒田良子

一月三十一日 月曜 晴

特急にて沼津へ東宮殿下御機嫌伺並に欧米御旅行の随行の御礼を申上く。御会食あり。

午後二時二十三分発にて帰る。藤井<sup>\*1</sup>近衛師団長同行あり。又三条<sup>\*2</sup>男婦りの汽車中において、共に大船迄同行す。彼れは両陛下下の御使として沼津へ行きたり。松井小田原より帰る。本日西園寺<sup>\*3</sup>八郎小田原へ行き、松井に面会。其為め帰る（東宮御欧行の件）。

\* 1 藤井幸楯 \* 2 三条公輝（皇后宮職主事） \* 3 公爵西園寺公望の養嗣子、皇太子御外遊の供奉員

二月一日 火曜 晴

松井興津の西園寺公に面会の為め行く。

森島一等軍医を呼び英国パマナ運河の景況を聞く。

二月二日 水曜 晴

午後一時より参謀本部にて永井大佐前回の講話のつゞき（仏国軍の件）。

二月三日 木曜 曇 午前九時過ぎ雪始まり終日降る 約六七寸

午前十時過ぎ西園寺公来り、東宮御欧行の件に付き色々談話を聞き、正午稍帰り、再び午後三時より西園寺公、中村宮内大臣、珍田<sup>\*1</sup>伯来り、東宮御洋行の件に付き色々談話あり。随員の人名も決定せり。午後六時稍前に皆な帰る。

本日は今年始めての雪にて終日降る。

福田次長来り。桜井大尉の語学の件答に来る。

\* 1 珍田捨巳、皇太子御外遊の供奉長を勤める \* 2 福田雅太郎（参謀次長）

二月四日 金曜 曇

昨夜も降りて約八寸以上となる。終日曇天。

午後一時より岡本連太郎<sup>(連一郎)</sup>大佐を呼び、米国の景況を聞く。

二月五日 土曜 晴

大森大夫来り。面会す。東宮御洋行に付、色々談話あり。

午後一時より永井大佐を呼び、仏国の景況を聞く。

春仁を小田原より呼ぶ。午後八時半帰る。

二月六日 日曜 晴

春仁午後一時四十二分新橋発にて小田原へ帰る。

余か洋行に付き数月間不在に付き、春仁へ注意。

東宮沼津昨日御出発。葉山に御一泊にて今夕御帰京。

二月七日 月曜 晴

午後一時より田中<sup>\*</sup>少将（前英国大使館附）を呼び、英国の景況を聞く。

\* 田中重陸軍少将

二月八日 火曜 晴

午後二時に磯谷賀陽宮事務官来り。賀陽宮の件に付き談話ありたり。

堀内中将来り。面会す。一昨日（日曜）に彼れは小田原へ行き、別邸を見た

ることを申し。大に驚きいたり。

夕刻、小栗海軍中将第三艦隊司令長官来り。今回東宮殿下御洋行に付き、余が艦隊に乗ることに付き御礼として来る。

水野<sup>\*2</sup>朝鮮政務長官夫人来り（午后）。智恵子に面会す。人参を貰ふ。



<sup>\*3</sup>吉田要作に電話にて問合せたるとして差支なきとの返報ありと申ことなり（英  
国よりならん？）。

\*1小栗孝三郎 \*2水野錬太郎 \*3吉田要作（式部官）

二月九日 水曜 晴

<sup>\*1</sup>午前に石原宮内次官を呼び、東宮御出発の時日を聞く。今朝の新聞にある如  
く三月三日と決定。但し御沙汰の発表はまだなりと申ことなり。

午后二時、東宮御所に参殿して、拝謁して、数十分間御話申上く。

士官学校予科の教官（春仁の為の者）五名と科長長谷川少将<sup>\*2</sup>を呼び、面会し  
て希望を説明せり。

陸軍大臣を呼び、賀陽宮の件に付き申しをきたり。

松井小田原より帰る。

\*1石原健三 \*2長谷川直敏（陸軍士官学校予科長）

二月十日 木曜 晴

夕刻五時半過ぎ石原宮内次官来り。良子女王の件に付き、世間に於ては甚た  
不穩の形勢になりたるに付き、中村宮内大臣は前の説を取消して辞職するに決  
すると申来りたり。

\*いわゆる宮中某重大事件。皇太子と良子女王との婚約内定取り消しに反対する運動が高ま  
り、中村宮内大臣はこの日御内定に変更なきことと、自らの辞職を発表した

二月十一日 金曜 小雪后雨

午前九時半、余のみ賢所に参拝す。正午の御宴会に出席す。東宮殿下御出ま  
しありたり。

宮内大臣に面会して色々談話せり。

二月十二日 土曜 雨小雪又雨 小田原行

午后零時五十分東京発にて兩人、寛子、華子小田原行。  
小田原は殆んど雨止みたり。

二月十三日 日曜 晴 小田原滞在

午前十時より自動車にて山縣元帥邸に行き、十一時半頃帰る。

寛子、華子、午后三時四十八分小田原発にて帰京。

二月十四日 月曜 晴 小田原より帰京

<sup>\*</sup>大島大将来り。面会す。

午后二時二十分、小田原発にて兩人帰京。

\*大島義昌

二月十五日 火曜 晴 皇太子供奉員呼ぶ  
散髪す。

午前九時半中村宮内大臣来り、御沙汰書を余に。

皇太子殿下海外御巡遊随伴被仰付

御礼は宮内大臣より葉山へ伝達せり。

<sup>\*1</sup>別当来り。面会す。

午后二時頃、長崎省吾来り。過日病氣のとき見舞を送りし礼に來り。今回余  
の東宮随伴に付き、彼の前年小松宮、伏見宮に随行使しとき、英国に於ける  
情況と英国皇室の景況を談す。<sup>\*2</sup>木内前京都知事來る。珍田伯以下皇太子供奉  
員を呼び、数々注意を与へ、茶菓を出す。

\*1田内三吉（閑院宮別当） \*2木内重四郎

二月十六日 水曜 曇 午后より雨

春仁の体操並に劍術の教官後藤大尉、戸山学校長と共に來り。面会す。騎兵  
第一聯隊長小畑大佐来り。<sup>\*1</sup>賀陽宮の近情を談す。

安藤子来り。松井に面会す。昼食を共にして帰る。

山本海軍大佐来り。各国巡遊の日割を持ち来る。

\* 1 小畑豊之助 \* 2 山本信次郎 (東宮職御用掛)、皇太子の供奉員として仏語通訳を勤める

二月十七日 木曜 晴

午後六時半、宮中晚餐。東宮外遊の為め各大公使を召さる。余も参列す (礼装)。八時半頃帰る。歐洲へ出張の費用として五万円下賜あり。

二月十八日 金曜 晴

正午、東宮御所御食事。各皇族方。

徳川貴族院議長来り。今回余の外国へ出張に付き、議員を代表して旅行の安全を祝し来る。

福田大佐面会す。其挨拶として福田を書記官長へ遣す。

\* 徳川家達

二月十九日 土曜 晴

正午、東宮御所に於て余始め供奉員を招され食事。西川新第一師団長を呼び、賀陽宮に付き談じたり。

春仁昨日来少々風氣と申すことを松井帰りに申す。

\* 西川虎次郎

二月二十日 日曜 晴

阿部小田原中学校長を呼び、春仁三月卒業に付き長年間の (以下欠)。梨本宮来る。

\* 阿部宗孝

二月二十一日 月曜 晴

午前八時半の特急にて京都に行く。松井、福田、千国供す。

午後七時半、京都に着し、長楽館に泊る。

二月二十二日 火曜 晴 寒し 京都

午前八時より自動車にて桃山両御陵、泉山両御陵に参拝。賀陽宮に行き、大妃殿下に面会。昼食后、廬山寺、久邇宮、相国寺、村雲瑞龍寺に行く。午前<sup>\*</sup>に村雲様の墓所にも行きたり。

賀陽宮其他より餞別として、菓子其他品物、或は料を貰ふ。

午後八時十分京都発にて帰京。松井残る。

京都は東京より寒気強く感じたり。

\* 村雲日栄、載仁親王の姉

二月二十三日 水曜 晴 帰る

午前八時東京着。帰京す。

尾野中将来り。賀陽宮の件に付き申し来る。

福田、平田、横須賀に行き軍艦香取を見る。午前九時五十分発、夕刻四時半頃帰る。其報告を聞く。

\* 尾野実信 (教育総監部本部長)

二月二十四日 木曜 晴 曇 夕刻より雨 雪交じり

山田彦総書の教師に面会す。

夕刻珍田伯来り。色々談話あり。其内に<sup>\*1</sup>牧野宮内大臣より過日談ありし皇太子伊国巡遊の件を申す。宮内大臣<sup>\*2</sup>牧野が原総理に面会したるとき、原も御止めに同意せりと云ふこと。而し外務大臣の意見を聞かねばならぬことなり。

\* 1 牧野伸顕 \* 2 原敬

二月二十五日 金曜 晴

午前十時過、梨本宮来る。面会す。

松井宮内省に行き、左の目録を持ち来る。

両陛下より(アキママ) 拝領す。

一、御紋附銀花瓶一

一、御紋附金製卷蓐入一

午后に至り御品物来る。

二月二十六日 土曜 晴

午後六時半、陸軍大臣晚餐。送別の為め余を招く(大臣急病にて出席せず)。

午前九時五十分、東京発にて葉山に行き、両陛下に御暇乞の為め参内。御会

食あり(両陛下)。陛下より葡萄酒二打と交魚一籠、皇后陛下より象牙の置

物と(アキママ) 附置時計を拝領す。帰途東伏見宮へ行き、来る五月赤十字

総会に余の代理をたのむ。有栖川宮へ行くところ、慰子様御病氣に付き御断

ありたり。

西園寺八郎、今朝七時過ぎ暴漢の為め負傷す。

本日より憲兵(平服) 二名邸内に詰る。

二月二十七日 日曜 晴

正午、伏見宮邸に於て、各皇族より皇太子並に余を食事に招かる。然るに皇

太子少々御風氣にて出席なく、余のみ出席す。

午後六時半、赤十字社に於て社長以下余の為め送別会に出席す。八時過帰る。

二月二十八日 月曜 晴 南風

午前十一時三十分、賢所に参拝して神酒を賜わる。

午後一時半、明治神宮に参拝す。

午後七時、英国大使館の晚餐会に出席す。九時帰る(礼装)。

皇太子御風氣の為め御出席なし。

春仁小田原より帰る。

竹田、北白川両妃殿下来り、面会。朝香宮も来る。

三月一日 火曜 曇 小雨

東伏見宮二方来り、兩人にて面会す。

夕刻、安藤子二人、三条隆子、三条チヨ子(千代)を呼び食事。黒田夫婦は過日来小

供と共に沼津にて流カ(感)ンにて、但し二、三日来全快なれとも来ることを断り

たり。

三月二日 水曜 曇

今朝荷物を出す。平田横浜に行く。

\* 白川士官学校長来り面会す。

春仁に余の留守中に於ける注意を言ふ。

明日出発に付き両陛下より特大籠の十種の交魚と酒二柳、又皇后陛下より御

菓(淺カ)子と 草のりを拝領す。

\* 白川義則(陸軍士官学校長)

三月三日 木曜 曇 寒し 東京出発 横浜出港 第一日

午前七時五十分自動車にて出発に付き午前五時起床、六時朝食、続ひて出発

前、余始め智恵子以下小供及安藤子、田内別当以下と別れのシヤンパンを飲

ひて内を出る。東宮御所より御供にて八時三十分出発す。九時二十五分東京

駅発、十一時半横浜港御出航ありたり。

皇子兩殿下、伏見宮、東伏見宮、伏見若宮、梨本宮、久邇宮(候補生)、山

階宮、北白川宮、朝香宮、王世子、各大公使以下文武百官御送り申上く。

海上曇天にして(フキママ)あれとも船と一(動揺)よせず。夕刻伊豆の南方を通過す。雨となる。

夕食午後五時半。

\* 田内三吉 (閑院宮別当)

三月四日 金曜 晴 曇 船中第二日

午前六時起床、七時朝食。九時過ぎより上甲板に行き皇太子殿下に拝謁す。殿下御運動中なり。

昨夜は海上平穏なりしも、今朝より波稍高く、香取稍左右に動揺す。正午の食事には皇太子船暈の爲め出席なく、余以下食事を爲す。食堂に着席するや上窓より波入り来り余の左肩を濡す。其他の人にも波がかかりたり。故に食堂を他にうつす。

正午艦は紀州潮崎南方約九十哩の位置にある。

波高く右(舷)ゲンより左ケンに波上甲板を流るゝなり。

東京より数回の電報無線にて来る。

三月五日 土曜 晴、曇 稍暖気となる 船中第三日 第一報

起床、朝食同し。午前九時過ぎより東宮殿下とデッキゴルフを爲す。昼食は余のみ室にて。時々写真をとる。夕刻に無線電線室を見る。夕食は皆と共にす。東宮出席なし。

昨日より波稍鎮まる。然し時々波上甲板に上る。一昨日来伊豆の南端より一直線に中条湾(岬)に向ふ。但し本日は西北風の爲め稍南方に流さる。

第一報を東京に出す。

三月六日 日曜 晴 沖繩に上陸 船中第四日

午前九時半過、香取中城湾に入港し、川越知事以下来り面会。十時過退艦、

約三十分小蒸汽にて与那原に上陸、軽便にて那覇に行き、県庁にて昼食、物産を見る。知事より写真帖、野菜一籠、ラン二鉢頼みたる爲め、市長より(ガジュマル)カズマル二鉢、蘇鉄二鉢を貰ふ。首里に行き尚侯爵邸に行き旧城跡に見物す。其間人力車、那覇より再び軽便にて与那原へ帰り、午后四時過ぎ小蒸汽にて香取に帰る。五時過ぎなり。六時過ぎ中城湾出港、香港に向ふ。

今朝より暑を感ず。

\* 川越壯助 (沖繩県知事)

三月七日 月曜 晴 曇 暖気となる 船中第五日

昨夜半十二時に於て時計を一時間違らす。故に内地より一時間違来て仮令は午前六時は内地の五時と同じ。海上平穏、皇太子とデッキゴルフを爲す。午后より海上波稍高くなる。

今朝飛鳥三尾香取艦上に飛揚し来る。鹿島にも三尾来りと云ふ。

正午宮古島の南にあり。

夕食は皇太子供奉員と共にせらる。

本日より冬服を止め春の四五月の服と交替せり。

三月八日 火曜 晴 時々小雨 船中第六日 寢室七十三度

起床、朝食、同し。昨日来中城湾を出で進路を西南にとりしも台湾に近づくにしたがひ進路を直西にとり火烧島の北方より台湾東岸に並行して南下し、最南端に於て新高艦来り奉迎す。此艦は澎湖島にありて警備にある者なり。時に午後五時過なり。其時より進路を西稍北にとり香港に向ふ。

三月九日 水曜 晴時々小雨 船中第七日

起床、食事前日に同し。

暖気大に加わる。

本日正午には台湾南端と香港の中央にある。あまり近きにより速力をゆるめる。

午后より支那ジャンクを見始める。

三月十日 木曜 晴 午后より小雨 夜半大に降る 香港着、午前八時過 第二報を出す

午前五時半起床、六時半食事。

午前七時頃より香港入口に着す。八時過同港に着す。領事及コンツン<sup>\*1</sup>メー氏来る。色々と香港の模様を聞く。九時半皇太子、総督の伺候を受らる。随員も来る。余も面会す。皇太子、十時に英国軍艦に行かれ総督を答問せらる。十一時、英国の他の官吏に賜謁。

午後八時、総督官邸に於ける晚餐会に余のみ出席す。皇太子は出席なし（鮮人云々の為）。十一時過ぎ帰る。燕尾服。香取より出発のとき雨大に降る。松井<sup>\*2</sup>・平田<sup>\*3</sup>、上港して買物に行く。

香港の陸地の家は甚だ綺麗にして大なる家あり。夜間は灯火の為め山の上迄電灯ありて綺麗なり。

海軍工廠内に船着き自動車にて軍隊若干、途中にあり。

\*1リチャード・ボンソンピフェーン、香港政庁からの連絡係 \*2松井修徳（閑院宮事務

官） \*3平田輝吉（閑院宮附属）

三月十一日 金曜 曇 晴 夕刻より雨 香港滞在

午前九時半より余は皇太子と平服にて「コンソン<sup>(ボンソンピ)</sup>ビー」の案内にて工廠内に上陸して二台の自動車にて分乗す。皇太子、入江、珍田、コンソンビー、他の一台には余と松井、福田、奈良。香港の市街を通過して約三十分の後総督と合し、総督の自動車には小松侯、山本あり。官邸より出でて前に着せり。夫れより香港の裏になる貯水池のある地点に行き、若干徒歩運動して再び自

動車にて軍艦の既に待ちをる地点迄行き乗船せり。同船中にて昼食、午后二時過香取に帰る。本日はストーンカッターズと云ふ地に行く予定なりしも、多くの土地の人知らん為め総督の心配にて昨夕急に変更したるなり。午后三時より鹿島艦上の茶話会に皇太子と行く。日本人多数ありたり。婦人もある。

三月十二日 土曜 快晴 湿度六十六度 稍冷し 香港滞在

午前九時半より英国小汽船にて灯台のある一小島に行く。総督も同行す。正午過ぎ帰る。午后四時、在留の日本小学校生徒約六十名来り皇太子に拝謁す。御菓子を賜わる。午后七時より艦内に皇太子より総督以下を召され晚餐会あり。

三月十三日 日曜 快晴 香港出港 航海第八日

午前九時半、総督香取に来る。皇太子に御分れの為めなり。軍艦は十時に出港す。海上平穏なれども波の為め稍動く。

午後七時過ぎより活動写真ありたり。

香港総督はエドワール<sup>(レジナルド・スタップス)</sup>・スチュプス。

三月十四日 月曜 晴 室内約八十度となる 航海第九日

起床、食事同し。午前八時過ぎ散髪す。

正午に時計を三十分遅くする。海上の波なきが如きも大なるうねりにて船稍

動く。然し平穏なり。

夕食后デッキゴルフを為す。

三月十五日 火曜 晴 昨日より稍冷し七十六、七度 航海第十日

起床、食事同し。

皇太子の仏語を拝見す。

夕食后活動写真ありたり。

三月十六日 水曜 曇 室内八十二度 航海第十一日

日中は毎日と変化なし。

夕食后活動写真ありたり。

植木の手入を松原と申す特務少尉に二、三日前よりのむ。

本日の正午は安南沖の南方を航海す。夕刻より稍冷しくなりたるも室内は暑し。

三月十七日 木曜 晴曇 室内八十一度 航海第十二日 第三報

昨日と同じ。

左に島を見る。午后四時頃なり。

海上平穏なり。

特筆すべき件なし。二、三舟を見る。

第三報を書く。

小松侯、兩三日前より病氣のところ漸次よくなる。

三月十八日 金曜 晴 新嘉坡着、午前八時

起床は午前五時半、朝食六時半。其以前より新嘉坡入口の諸島を見る。軍艦

は七時過ぎより港内に入りつゝ、ありて八時稍前に礼砲を打ちつゝ、港内に止る。

総領事は英国の陸海両武官と来る。皇太子に領事拝謁。十時に総督の伺候を

受らる、次に東洋艦隊司令長官の伺候あり。皇太子、答問の爲め英国軍艦に

行かる。

午后三時半(夜)ゴー洲艦隊司令官伺候。四時半英国の主なる文武官約三十名、皇

太子に拝謁。松井、平田上陸、福田も同じ。

新嘉坡総督は *Gullemard*

\*ローレンス・ナンス・ギルマード

三月十九日 土曜 晴 八十六、七度 滞在

午前八時半より香取を下り、総督より差廻しの小蒸汽にて上陸、特別な上

陸点、皇太子も同行、総督来りあり。皇太子同乗、余は次の自動車にて新嘉

坡の裏の道路よりう廻して植物園に行き、園内約三十分徒歩見物す。夫れよ

り総督官邸に立寄。次に水源地、日新ゴム園見物して正午過香取に帰る。

午後八時、食事の爲め総督官邸へ再び行く。燕尾服、十一時過帰る。

三月二十日 日曜 晴曇 八十五、六度 滞在

午前八時半より香取を出て上陸、総督より同行して皇太子と博物館を見物す。

本日は日曜なれとも特に開きて見物をなさしめたり。

正午、駐在陸海両武官の爲め昼餐、(ラジル)中村公使ブレジルより帰朝の途の爲め新

嘉坡に船入港す。今朝故に後れて来る。午后一時より日本小学校生徒約五十

名来り皇太子謁を賜わる。菓子を拝領す。

午後三時半より鹿島艦上に於て香港て在りし如く茶談会に皇太子と出席。角

力、ポートルース、仮装行列等あり。

\*中村魏(在アルゼンチン公使)

三月二十一日 月曜 晴 滞在 艦上晩餐会

起床、食事同じ。本日は春季皇霊祭に付き艦上にて遙拝式を施行す(午前八

時の軍艦旗上げ后)。八時半より総督のヨットにて新嘉坡島を一周す。約七

時間にて四時に香取に帰る。

午後七時半より艦上へ皇太子より総督以下(アキママ)名を召され晩餐会、余

も列す。

南洋物産陳列館より書物、写真を貰ふ。

日本人会より写真と(アキママ)鳥を貰ふ。

\*別の記録では十四名

三月二十二日 火曜 晴 驟雨来る 航海第十三日 新嘉坡發

起床、食事同し。午前八時半総督香取艦に來り皇太子に謁し御出發を祝す。余も亦礼を申せり。

九時、同港を出艦、日本人數多小蒸汽にて御送りに來る。同港を去ること約二、三十分にして驟雨來りたり。去る十八日以来雨なくして甚た珍らしき天氣つづきと申ことなりし。其后二、三十分にして雨止み曇天にして海上甚た平穩なり。暑氣は稍減少す。

若干の舟に遭遇す。夕食後にMM会社の一汽船本艦を乗越して進みたり。

三月二十三日 水曜 晴 驟雨あり 航海第十四日

起床、食事同し。

本日は驟雨の為めか暑氣甚たしくなく寒暖計も八十度に昇らず。

若干の船に遭遇するなり。

夕食前に救助の演習あり。水兵の角力を見る。食後は松平学円の講談を聞く。

三月二十四日 木曜 晴 暑氣にて温度八十二度 航海第十五日

起床、食事同し。

スマトラ島の西北端に夕刻達す。明日よりコロンボに近づく迄は何にも島を見ることなし。但し本日も若干の船に遭遇せり。

今朝九時過ぎに磁針器を驗査せり。

三月二十五日 金曜 晴 驟雨來りしも他方面に行きたり 航海第十六日

起床、食事同し。

印度洋に出てたる為め軍艦稍動揺す。

防火演習を夕食前に施行す。

夕食後は講談ありたり。

三月二十六日 土曜 晴 暑氣 温度八十二度 航海第十七日

起床、食事前日に同し。

多少の動揺あるも海上平穩なり。時々飛魚の飛ぶを見る。救助演習を為すを見る。夕食後、皇太子御持ちの活動写真を見る。

(インド洋の地図の書込みあり(上掲))

三月二十七日 日曜 晴 暑氣 温度八十二度強 航海第十八日 第四報

起床、食事同し。

毎日変化なし。デッキゴルフ遊戯等と仏

語の復習なり。午后五時過ぎより艦隊の陣形演習あり。為めに軍艦稍動揺す。

夕食後講談あり。

午后に鯨が潮を吹きたると申ことなりしも余は見ざるなり。

東京智恵子へ第四報を本日書く。

三月二十八日 月曜 晴 温度八十一、三度 古倫母着滞在 雨あり

五時半起床、六時半食事。

今午前三時過ぎ、ロー電を水兵が思ひちがいでして火事と思ひ報知せりと申こ

とを今朝聞きし。夫れ故に鹿島より參謀長連か來りたり。軍艦は午前八時古

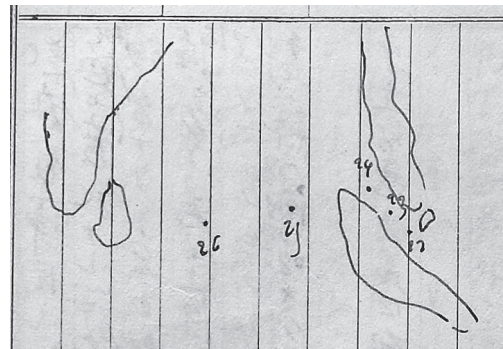
倫母港外に達し八時過ぎより港内に入りたり。領事 田ト名誉領

事 (アキマ) \*2 來る。総督の副官も同時來る。十時、総督メニング氏、

副官以下と共に皇太子を謁問。其后皇太子答問の為総督官邸に上陸せらる。

衛兵整列、官民多く道路上にありと云ふ。儀裝馬車(六頭疋)。

午後七時十五分より皇太子と余は總督官邸の晚餐会に出席(燕尾服)、十一



3月26日

時帰る。

\*1 縫田栄四郎 (在ボンベイ領事) \*2 ウォルター・シエークスピア

三月二十九日 火曜 晴 暑気強し カンジーに出発 総督官邸

午前十一時の汽車にてカンジーに出発、総督波止場に皇太子を向へ停車場には夫人もあり。特別列車にて余始め一行出発す。汽車中昼食、午后二時半過ぎカンジーの総督官邸に泊る。停車場よりは自動車に(皇太子の)騎兵附にて公式の如き入市にて市民多数途中にありたり。御茶后仏寺に行きシヤカの齒及公園を一周。八時晚餐会あり(燕尾服)、食后約三十正の象及び土人のをどりを見る。甚た(以下欠)

当地は千六百以上の高地なる故に古倫母よりも稍冷しけれども日中は大なる差なきも夜間より翌朝に至る迄は冷しくて寝るには甚た可なり。

汽車は約三時間半なり。

三月三十日 水曜 晴 午后雷雨、稍冷し カンジー出発、古倫母に帰る 午后三時十五分發、六時三十分着、七時稍前香取に帰る

午前十時より総督夫婦の同車にて植物園を見る。一時昼食、午后三時十五分カンジー出発。其時より雷始まり、出発后雨降り、雷鳴す。古倫母着時も雨にて、然し暑気は稍少し。然し軍艦内は暑し。

両日共余は総督夫人と同車す。

松井、買物に市中に行くも善き物なきと申ことなり。象の置物の如きも日本にて製すると云ふこと。

三月三十一日 木曜 晴 暑し 古倫母滞在

起床五時半、食事六時半。

八時上陸して波止場には総督夫婦ありて皇太子と共に古倫母の博物館に行き、帰途景色のよき海岸に行き小憩して、十時半過ぎ軍艦に帰り、正午鹿島に行

き、小栗司令長官以下と昼食。其后土人の手品を見る。又四時稍前より上陸して皇太子とゴルフ場に行く。皇太子、総督夫婦とゴルフを為し、六時半過ぎ軍艦に帰り、八時皇太子、総督以下を艦上に召され晚餐会。十時半過ぎ終る。

本日は衣服を變ること四回に及べり。

\*本多公使フーストリアヤ国へ赴任の途中三島丸にて今朝当地着、面会す。

\*本多熊太郎(在オーストリア公使)

四月一日 金曜 晴 暑し 古倫母出発 航海第十九日

起床、食事平常の時なり。

総督は昨夕にて御別を為し今朝は来らず。

午前九時出港して蘇士に直行す。(スエズ) 来る十五日着の予定なり。今朝は暑きも午后よりは近き場所に驟雨ありしと見え風あり稍冷しくありし。而し夕刻より暑くなる。

四月二日 土曜 晴 暑し 八十四、五度 航海第二十

起床、食事平常の時間なり。

海上平穩にして波なく、まるで油を流したるが如し。若干の船に遭遇す。又速力の速き船は軍艦を乗越して行くもある。午前十一時過ぎ稍近くに鯨三、四疋が能其体を見せたり。

夕食后、鹿島にて花火若干を為して見せたり。

皇太子御持参の活動写真コロンプス亞米利加発見の者なり。

四月三日 日曜 晴 時々驟雨 八十三、四度 航海第二十一日

本日は神武天皇祭に付き午前八時四十五分に上甲板にて遙拝式を施行す。通



常礼装。

今朝午前五時過ぎ一時軍艦の停止せるを知る。夫れは后にて聞き<sup>(ママ)</sup>ば軍艦鹿島にて蒸気管の破裂の為め即死三名と重傷者一名を出したるなり。約一時間半の后前進を始めたり。故に死者に十五円つゝ、重傷者に七円五十銭を送る。

本日時計を三十分遅らす。午后四時に御茶を始める。夕食は七時となる。夕食の楽を止む。

**四月四日** 月曜 晴但し驟雨あり 昨日より稍冷し 八十二度 航海第二十二日

今朝午前四時頃に驟雨あり。寢室の窓に風取りのままにてありし為め雨の音にて目を覚まし、大急にて夫れを取りたり。午前五時半起床。

午前六時散髪す。七時過ぎより又驟雨来り、其后稍暑気減したり。

午前九時より鹿島にて昨日の死者の為め水葬を行ふ。余始め上甲板に集まりたり。十時過ぎ終る。

夕食の楽を止む。

**四月五日** 火曜 晴 天候海上共平穩、北風の為め稍暑気少し 航海第二十三日

午前六時起床、七時朝食。

特筆すべき件なきも、午后三時過ぎに皇太子に今后に於ける御注意を珍田と共に申上く。

夕食后活動写真、コロンブスの者なり。

三十分時計を遅くする。

**四月六日** 水曜 快晴 午前中は暑く午后より北風にて稍暑気少し 航海第二十四日

起床、食事同し。

艦隊は午前八時過ぎより演習を始め。距離測定のため両艦は一万二、三千米

の間隔をとる。又火光通信を為せり。海豚<sup>イルカ</sup>数十疋を見る。昨日の如く御注意を申し上く。

**四月七日** 木曜 快晴 西南風なれども暑気稍少し 航海第二十五日

起床、食事同し。

本日午前八時半、小栗司令長官本艦に來り艦内巡視を為す。約二時間。昼餐を皇太子以下と共に、午后四時の茶の後、鹿島に帰らんとす。其稍前本艦に於ても過日鹿島に有りしと同じ蒸気機関の破裂あり。為めに機関兵二名即死、軽傷者二名を出せり。故に前回と同じく金を送る。

午后左舷に若干の海豚を見る。

海上平穩なり。

**四月八日** 金曜 快晴 西南風 暑気稍少きも空氣重し 航海第二十六日

起床、食事同し。

海豚多数海面上に見る。

午后三時より死者の為め水葬を施行す。小栗司令長官來り前甲板にて儀式あり。供奉員も参列せり。四時に終る。其式は水兵中に僧あり、御経を読み、色々と供物あり、其他の品物も常に準備しある者の如しと云ふ。

**四月九日** 土曜 快晴 昨日と同じ、但し暑気加わる 航海第二十七日

起床、食事同し。

本日は海上平穩にして特筆すべき件なし。

海豚出没す。

今夜午前二時頃アデン灯台を見ると云ふ。

**四月十日** 日曜 快晴 昨日と同じ、但し風位変化す 航海第二十八日

起床、食事同し。

昨夜午前二時過ぎ小便の為め起きたるとき窓よりアデンの両灯台を見る。

今朝よりバブデルマンベールと申す紅海の入口の海峡附近の土地を見つ、

午前十一時過ぎよりベルム島を通過して紅海に入る。其時より風始まる稍暑気

も減ず。午后一時過ぎより右舷アラビヤ土地にある「モツカ」<sup>(メツカ)</sup>と申す稍大なる

町を見る。稍家大にして高き寺の塔を見る。夜になり又灯台を見る。

午後五時半頃より将校の柔道を見る。

**四月十一日** 月曜 晴 海上稍波あり 北西の風にて稍暑気少し 航海第二十九日

起床、食事同し。

本日は昭憲皇太后御例祭日に付き午前八時四十五分より遙拝式を艦上にて施行、

皇太子、余始め参列す。大阪商船の一商船にあふ。七万噸と申ことなり。

終日陸地を見ず。十四日迄陸地を見ざると云ふ。紅海の<sup>テキマ</sup>も可なり大なる

者なり。其長さは北海道の北端より九州の南端に至る長さと同し。

夕食后軍艦鹿島にて若干の花火を打上る。

**四月十二日** 火曜 快晴 海上平穏 北西の風暑気少し 航海三十日

起床、食事同し。

去る十日より紅海に入りてから北西に進むにより、毎朝日出より右舷に日を見る

故に起床前より窓に日が当り午前中は日がある故に稍暑し。午后は日は

左舷に当るから右舷は冷し。帰り西には左舷余の室に午后日が当るから暑か

らうと思ふ。

本日午前九時より皇太子と共に機関部に入り機械及蒸気釜<sup>かま</sup>を見る。衣服が

汚<sup>よご</sup>る為め海軍で使用しつ、ある作業服の如き者を着用す。上下同一のつづ

きたる服なり。約二十分見学す。温度百三十度以上ありたり。夕食后楽長よ

り楽に付き説明と演奏を聞く。

**四月十三日** 水曜 晴 西北風にて稍暑を減す 航海第三十一日

起床、食事同し。

午前十時過ぎに熱帯地方より北に進みたるなり。

本日は其故か暑気減し西北風にて甲板上にて身体を動かさざれば汗は出るこ

となくなりたり。午后四時過ぎより濛気あり、遠方を見ること能わず。然し

一万米ぐらゐは見ることを得るなり。本日は船を見ざりし。午后八時半頃右

舷遠くに灯台を見る。

**四月十四日** 木曜 晴但濛気<sup>ちゆう</sup>ありて日光を見ず 西北風にて稍冷し 航海第三十二日

起床、食事同し。

午前七時過ぎより風強くなり夏の白服にては冷しくて甲板上にあること稍困

難となる。稀なることなり。

午后二時過ぎよりスエズ湾に入るも波高くして風あり。但し軍艦は動揺せず、

今朝より扇風機の使用なくて暑くない。

本日午后余は珍田と共に皇太子に御注意を申上く。

**四月十五日** 金曜 晴 昨日と同しく稍寒し西北風 午前九時蘇士着

起床、食事同し。但し日出は速き為め寢室の窓に早朝より日があたる。

両岸に地を見る。濛気<sup>ちゆう</sup>の為めシナイ山をかすかに見る。

午前九時、蘇士港に入港す。英国軍艦あり、敬礼を為す。其艦長、アレ<sup>\*1</sup>

ンペー元帥の代理として副領事、日本領事マシコ<sup>\*2</sup>、蘇士屯在軍隊指揮官及副官、

蘇士運河社長（仏人）等来る。午后四時過ぎより皇太子と上陸、水源地に行

く。蘇士市内を通過す。甚た不潔なり。水源地の官吏仏人なり。彼れよりバ

ラの花を貰ふ。甚た見事なり。自動車に故障ありたり。六時過ぎ帰る。七時

に鹿島の将校を召して御会食あり。高田侍医病気の為今日より帰朝す。

\*1アレンビー陸軍元帥 \*2益子齋造(在ポートサイド領事)

四月十六日 土曜 晴 西北風稍寒し 午前七時四十五分蘇士発 運河に入る 航海第三十三日  
午前五時半起床、食事同し。

午前七時四十五分、蘇士港出發、運河に入り、午前九時半過ぎ先頭にある鹿島坐礁す。殆んど同時に香取も坐礁す。香取は一、二分にて前進を始めたるも鹿島は容易に離れずして午后二時半過ぎになり前進を始む。故に予定のイスマイヤ湖に行くことができません。

湖に午後六時半過ぎ着し仮泊す。  
運河の右側アラビヤ方面には英国軍の防禦陣地の痕跡ありて鉄条網又は堡壘土攘等在りたり。  
夕刻より稍寒くなる。

四月十七日 日曜 晴 午前五時半出發 午後一時過ぎより北風砂漠の砂を飛ばす 午後四時坡西土に安着す 航海第三十四日  
午前五時半起床、六時半朝食。

香取は午前五時半より出發す。途中三回坐礁するも直に下りて前進す。途中今日も英軍の堡壘の跡を見る。又 (ツキマツ) には一大根拠地とて各種類の物品及糧秣多数にあるを見たり。午後四時、坡西 (ポートサイド) 土へ安着す。益子領事、アレソビ將軍の代理として副領事、エジプトシユルタンの副官、英仏軍艦の各艦長謁問に来る。一昨日晚餐のときの如く鹿島の殘將校に御陪食。  
午後一時頃より北東風始まりアラビヤ砂漠の砂ほこりを飛ばし為め窓を閉るも砂埃室内に入り、砂と暑さとて稍困難せり。

四月十八日 月曜 晴 南風強砂を飛ばし熱氣強し 百度以上ならん 坡西土発 カイロー着 総督官邸に泊る  
午前十時二十分、香取を下り近くの運河会社前より皇太子と上陸、衛兵閱兵、

自動車にて停車場に行き、特別列車にてカイローに向ふ。イスマリヤ迄は運河に沿ひ、夫れより内地に向ふ。始めは砂漠なりしもカイローに近づくにしたがい (ニール) 河の水の為め耕作能く、土地豊作にして農家富める。気候は今日は特別とて砂漠の南風始まり汽車中甚だ暑く、カイロー着のときはまるで機関室にでもある如き温度なり。官邸着后夫人に面会、(ピラミッド) 見物、其時は南風強砂を飛ばし熱氣にうたれる如き思ひしてヒラミッド着す。実に大なり。但し砂の為め目を能く開いて見ることが得ざりし。帰りて茶話会、多くの人に面会。八時半晚餐会英人、土国人等あり。十時半室に帰る。

四月十九日 火曜 晴 カイロー滞在  
午前六時起床、七時茶。  
午前八時半、皇太子と食事。  
午前十一時より皇太子と埃及王を訪問に行く。正午、彼答問の為め総督官邸

に来り、皇太子並に余に面会す。通常礼装。昼食后、ジュート・ポローを見に行く、一騎士馬と共に倒れ、騎士は異状なきも馬は即死す。博物館、図書館、グレーク博物館、城跡、モスケー等を見る。市中を通過する。稍不潔なり。八時半晚餐会、約三十五名。

カイロー着、発共に停車場の外に儀仗隊あり。  
松井、カイローにて烟草を買ふ、土産品として。

四月二十日 水曜 晴 今朝は稍寒し カイロー発、坡西土着  
午前六時起床、七時茶。八時半、皇太子と朝事。皇太子より花瓶一对アレンビー婦人へ。午前十時二十分総督官邸を出發、同三十分発にてカイローを出る。途中十二時過ぎより風始まり北西、稍砂を飛ばす。昼食汽車中。三時坡西土着。香取に帰り、四時過ぎより市中見物に自動車にて皇太子と共に行く。

約十五分間。香取にて晩餐会。

坡西土着発共に上陸点に儀仗隊あり。

第五報を東京に出す。絵葉書、坡西土、蘇士、カイロー、アエキサンドリ等の者なり。

四月二十一日 木曜 晴稍曇 西北風稍強 寒くなる 坡西土午前八時半出港、航海第三十五日

午前五時半起床、六時半食事。

午前八時に埃及国王代理<sup>(マ)</sup>、領事、警察官来る。八時半出港、益子領事も来る。港口にては風の為め波稍高く曇天なりしも、漸次風止み天候回復す。但し昨日来寒くなり夏服を止め、稍厚き服を用ゆ。

四月二十二日 金曜 晴 風寒し 航海第三十六日

起床、食事同し。

本日は甲板上は寒くして、又石炭ガラ飛来りて甚たきない故に甲板上に出る者少し。

十三ノットにて前進すと云ふ。

夕食后、講談あり。

四月二十三日 土曜 曇一時雨 西南風強 波高く軍艦動揺す 航海第三十七日

起床、食事同し。

本日は昨日より寒く久しぶりにて雨あり。又一時雨と同時に多分アフリカの砂ならんを降せりと申ことなり。西南風の為め海上波ありて稍高く為めに軍艦動揺す。日本海附近にありしうねりよりも稍大なり。本日より冬服を着す。

四月二十四日 日曜 晴但し西北風強し 航海第三十八日 午前十時過ぎマルタ着

起床、食事同し。

昨夜風雨強く為めに艦動揺すること大なり。故に浴室の空気ぬきより海水上

甲板より入り来り、午前二時頃小便に行きたるとき其浴室一ぱいの水にて大

に驚けり。故にせんをぬく為め跳になりて動あり。今朝も西北風の為め軍艦

動揺大にして一昨日来稍南方に流されたと云ふことなり。午前八時半頃より五個の英国駆逐艦、途中迄我艦隊を向に来る。空中には一個の飛行器も見

ゆる。十時過ぎ馬耳太軍港に入る。鹿島より礼砲を初める。香取の第一に港内に入る。英国軍艦あり答礼砲あり。英軍艦は満艦飾を為す。総督プラー

メー、司令長官<sup>\*2</sup>ドローグ、<sup>\*3</sup>ジュールジュ親王(候補生)十九歳の謁問、皇太子は余と答問に行く。午后四時ヲペラへ総督の請待、八時晩餐会。

\*1マルタ総督ハーバート・ブルーマー \*2英国地中海艦隊司令長官ジョン・ド・ロベツク \*3英国国王ジョージ五世の第四王子ジョージ、後のケント公

四月二十五日 月曜 晴稍寒し 馬耳太滞在

起床、食事同し。

午前十時上陸<sup>\*</sup>センジャン寺院見物、総督邸の武器庫見物、マルタカジノ昼餐会々員は四百名以上、但し本日は室の都合にて約百名。写真あり。午后三時半過艦に帰り、再び四時十五分より上陸、総督官邸(野外)に行く。園遊会。マルタ市街にも樹木多からざるも其邸内には稍大なる樹木あり、又草花もあり。

午后八時、香取にて晩餐会。ジョルジュ親王、総督、司令長官以下来る。

名誉領事<sup>(アキママ)</sup>に余の写真を贈る。又彼のも貰ふ。

\*聖ヨハネ大聖堂

四月二十六日 火曜 晴 風寒し 馬耳太出港 正午航海第三十九日

起床六時、食事七時。

午前十時四十五分ロック司令官、ジョルジュ親王謁問に来る。十一時プラー

ネ総督訪問に来る。正午出港す。

英国艦隊は満艦飾を為し皇礼砲を發射及登舷礼をも為す。又港外には駆逐艦五、飛行器二機にて約二十余湮迄奉送す。左舷に出て単縦陣にて登舷礼を為しつゝ、帰る。又午后五時十五分、五十余湮の海上に一飛行器馬耳太方向より来り右舷側に低空飛行。操縦者、直立拳手を為しつゝ、馬耳太の空に消えたり。若干の船に遭遇す。夕刻、日本大阪商船の一隻にも遭遇せり。

四月二十七日 水曜 晴 西風にて甲板上下石炭カス多し 航海第四十日

起床、食事昨日の如し。

昨夜正子にパンテラリヤ島沖通過、此島はシシリヤ島とチュニスとの中間に在り、独潜水艇の活動せる附近なりと。我駆逐隊も奮戦したる海上なりと。今未明にチュニスの山を見る。

四月二十八日 木曜 晴 東南風にて稍暖気 航海第四十一日

六時起床、七時食事。

靖国神社臨時大祭に付き、遙拜式を午前八時四十五分より施行す。海上平穩にして東南風の為め稍暖気となる。

午后角力ありたり。

四月二十九日 金曜 晴 西風昨日より稍寒し 航海第四十二日

午前五時半起床、六時半食事。

本日は皇太子殿下第二十回御誕辰に付き、午前八時四十分より拝謁して御祝申上く。正午に上甲板にて立食、小栗司令長官も来り、供奉員一同、香取の将校、立食後に於て各分隊の飾物を見る。色々と面白き趣向の物ありたり。又仮粧行列、手踊等ありて甚た面白かりし。夕食後は皇太子横浜より御出発の活動写真ありたり。

午後三時頃、イスパニヤの諸山脈を見る。

四月三十日 土曜 晴 海峽西風強、港内稍静なり ジブラルタル着、午前九時 智恵子よりの第一回手紙、三月九日付

本日は靖国神社例祭に付き、午前八時より遙拜式を施行せり。

英国駆逐艦四、午前七時頃より出向に来る。午前九時ジブラルタル港に入港す。当港には昨日入港したる米国軍艦ピッツバークありたり。午前中に総督<sup>\*1</sup> シュミット・ドリアル、海軍少将<sup>\*2</sup> ベーリー提督の訪問あり。米国軍艦司令長官<sup>\*3</sup> ブラックも来る。午后、皇太子、余と答問に総督邸、米国軍艦へ行く。総督邸前にて Boy scout の閱兵、小憩の後大通及海岸通を経て帰る。

午後四時過ぎより競馬場に行く。

午後八時、政庁公式晚餐会、十一時頃帰る。三十名。

竹下海軍中将、<sup>\*4</sup> 広沢イスパニヤ公使、英国の日本大使館書記官来る。<sup>\*5</sup> 稲垣中将より望遠鏡、<sup>\*6</sup> 清河大佐より大勲位の授をうけとる。

\*1ジブラルタル総督ホレス・スミスドリエン \*2ジブラルタル海軍司令官ヘンリー・ペ

リー \*3米国欧洲艦隊司令長官アルバート・ニブラック \*4竹下勇(国連海軍代表)、

これより皇太子の供奉に加わる \*5広沢金次郎 \*6吉田茂 \*7稲垣三郎(陸軍中将、

国連陸軍代表) \*8清河純一(海軍大佐、国連海軍代表随員)

五月一日 日曜 晴 日中は暑し 朝夕は冷し ジブラルタル滞在

起床、食事は六時と七時。

午前十一時半より上陸、海軍少将ペレー提督の案内にて、工廠内及貯水地の見物。軽便鉄道にてトンネルを通過してジブラルタルの反対がわに行き、島の岩を繰りぬいて貯水をし、天水を斜面にとり、夫れを岩中に貯ふために大工事なり。昼食は提督邸にて、午后は民政長官の案内にて殆んど同じ貯水

場を見る。午后四時過ぎ帰艦。再び鹿島に於ける茶に皇太子と行く。総督以下外人約二百名来ると云ふ。

日本名誉領事は「スミス」と云ふ。

五月二日 月曜 晴 昨日より稍冷し ジブラルタル滞在

午前六時起床、七時食事。

午前十一時に西班牙国アルジルラス市長ヴァリヤルバ来る。同国を代表して皇帝の伝言を申す。其前に英国の新聞記者一名皇太子に訪問に来る。十一時半上陸。アラメダ場に於て旧式の分列式を施行し、皇太子及余に見せる。兵力一大隊、軍旗あり、楽隊もある。其指揮官の乗馬の左手大に動く。自動車にて灯台見物。民政長官邸午餐、十二名。五時より政庁にて園遊会、甚た多人数なり。写真あり。八時香取にて晚餐会。

\*1親王は対岸のアルヘシラス市長と誤解しているが実際には Campo de Gibraltar 郡の軍

政長官 Don Jose Vilalba Riquelme \*2デイリー・メール社通信員 George Price

五月三日 火曜 晴 港内風なきも海峡は風ある ジブラルタル出港午前十時 航海第四十三日

起床、食事昨日に同じ。

午前九時十分海軍提督、十五分に総督ドリアン、三十分米司令長官等訪問に来る。

同十時に出港、陸地及米艦隊より礼砲あり。又港内の軍艦は満艦飾を為す。

港外には駆逐艦四隻あり、両舷にありて約二時間来り、后ち帰る。

午后一時過ぎ有名なるトラファルガルの古戦場附近を通過す。

五月四日 水曜 曇晴 風北西より来る ために艦動揺す 稍寒し 航海第四十四日

起床、食事同じ。

今朝は既に北方に面して航進しつゝあり。北西の風にてうねりあり。ために

軍艦稍動揺す。午前十一時リスボン沖を通過す。

午后三時より山本大佐の行儀作法等に付き講話。

五月五日 木曜 曇時々小雨 西風となる 昨夕より少きも稍動揺 航海第四十五日

起床、食事同じ。

今朝は西班牙領地を見つゝ、トロール舟多数ありたり。午前十一時頃ヒニステール岬、西班牙の西北端なり。ビスケイ湾に入る。午前九時過ぎより小雨と共にガス発生して遠方を見ることできず。

今日も昨日と同じく午前、午后に講話あり。

五月六日 金曜 曇時々小雨 西風 海上平穩 航海第四十六日

起床六時のところ、昨夜より三十分時計を進ましたるため、平田余の時計にて五時半に来れり。英国にては一時間時計を進めたるため、其半分を昨夜進めたるも、知らざりし為なり。

余日はビスケイ湾と申して海上常に悪しきと申処なるも、平穩にして航海す。

仏国の西方に当る海なり。一時頃ブレスト沖を通過す。

夕食后皇太子に余、珍田、竹下とて御注意申上く。

五月七日 土曜 曇時小雨 海上稍波あり 時計を三十分進める 航海第四十七日  
午前九時過ぎスピットヘッド着

起床、食事同じ。

海上稍ノームあり、稍波もある。午前七時に小栗司令官香取にうつる。八時皇太子旗を立てる。駆逐艦九隻来り迎ふ。飛行機も五機来る。午前九時スピットヘッドに着す。新しき戦艦(英)二艦あり、満艦飾を為し皇礼砲を發して迎ふ。クイン・エリザベット、ロワイヤル・ワフ。十一時英国大西洋艦隊司令長官海軍大将チャーレス・マッデン、ポーツマス鎮守府司令長官ガッフ

コルソープ大将(露大本營に余の行きたるとき在り)。午后皇太子と余答問

に行く。

林英大使来る。陸海武官も。

三月二十日出の知様の手紙。春仁、寛子、華子もあり。

\* 1 H.M.S. Royal Oak \* 2 Charles Edward Madden \* 3 Arthur Gough-Calthorpe

五月八日 日曜 曇時々雨 北風 波稍高し スピットヘッド滞在

起床、食事同し。

午後十二時五十分より旗艦クイン・エリザベス<sup>(エリザベス)</sup>へ行き昼食(マッデン大將)。食后艦内を見る。新式なり。午后四時頃帰る。

本日荷物をロンドンへ出す。明日は二、三個のみ。

五月九日 月曜 晴 稍寒し スピットヘッド出港 ポーツマス着 ロンドン行 着午后十二時四十分

午前五時起床、六時食事。

午前八時出港にて九時ポーツマス軍港着。棧橋に横付にする為め時間をとる。其前より正装を着用す。十時十分英皇太子接伴員と来艦、皇太子及余に面会。同二十分過ぎ退艦、閲兵あり。ポーツマス市長歓迎文を皇太子に答文を送らる。乗車。官民数多あり。同四十分發、十二時四十分ロンドン着。皇帝停車場にあり。閲兵。皇太子は英帝、英皇太子、珍田と馬車六頭引。余は第二の馬車に接伴員一、林大使、英第二王子と同車、四頭引。胸甲騎兵供奉。道路には軍隊あり。午後一時過ぎバッキンガム王城に着す。両陛下及王子・王女に面会。其前に閲兵、分列式、儀仗隊の歩、騎。皇帝・皇后・王子・王女と昼食。各皇族、大使へ訪問。戦役記念碑に参拝。寺院見物して帰る。午後八時十分宮中晚餐、百名約。宮殿及食器は甚だ美麗にして、能注意したるなり。食后又数多の人來り皇太子、余に面会す。十一時過ぎ両陛下に御礼を申して室に帰り寝る。

第六報を出す。

五月十日 火曜 晴曇 稍寒 滞在

午前六時半起床、八時半皇太子と朝食。

服のなをし。

午前十一時汽車にてウンザ<sup>(ウンザ)</sup>王城に行く。英皇太子御案内にて城内見物。武器、タブロー、ゴブレンの織物等あり。一時昼食す。先帝の廟に参拝。公園内馬車にて行く。ウンザの馬は皆なグリにてある。皇太子共々余は乗る四頭引。市長の歓迎の文あり。

\* 四(弘) 華毛

五月十一日 水曜 曇 滞在

午前六時半起床、八時半朝食。

十二時三十分倫敦市歓迎会に皇太子と行く。正装。儀仗隊附入京の時に同し。馬車も皇太子六頭、其他四頭、ギルドホールへ行く。午餐会、市長催約三百名。四時三十分府参事会員來り歓迎文を皇太子へ。八時三十分セントゼームス<sup>(ゼームス)</sup>宮殿に於て英皇太子催の晩餐会(燕尾)。

コンノート殿下写真を貰ふ。余のを贈る。

五月十二日 木曜 曇晴 小雨あり午前に 滞在

午前六時半起床、八時半朝食。

十一時に皇帝、皇后及皇子、皇女に拝謁して御暇乞を為す。両陛下より御写真を拝領す。夫れよりチエスタ<sup>(チエスタ)</sup>・ヒルドハウスに転宿す。今日を以て帝室の客たることを止められたるなり。今日よりは政府の客となる。午后昼食后議會下院及上院を見物す。夕食後は芝居を見に行く。燕尾。

五月十三日 金曜 曇 滞在

午前六時半起床、八時半朝食。

午前十時に日本協会員に面会。同十時五十分（フロックコート）出門、博物館<sup>\*1</sup>。読書室、図書館、絵画館、ミイラ館、エルジン、埃及、アッシリア、彫刻見物。英蘭銀行、金銀塊、ロッビー（控室）見物。同銀行ニテ午餐。ロイツ見物。倫敦塔着、城内見物、キングスハウスに於て茶。税関発水路にてウエストミンスター船橋着にて帰る。六時なり。八時より大使館に於ける皇太子の催の晩餐に列席す。食后レセプションに約五百名来る。

\*1大英博物館 \*2イングリランド銀行

五月十四日 土曜 晴 滞在

六時半起床、八時半朝食、皇太子と共に。

同九時十五分出発（フロック）<sup>(パデントン)</sup> 駅より十時四十五分オックスフォート着。大学次長<sup>\*</sup>ドクトル・ルイス・アール・ファーネル官邸に行き、夫人に面会。エキセター分科大学、マグダレン分科大学、クライスト寺院、オールド・スクール（旧校）、ボデアリアン図書館を見る。各学校よりも戦役の為め多く出征して戦死せりと。又学生監如き人の内にも片腕なき者あり。次長宅に於て午餐、分科の長と共に。日本留学生約十四人より書物を貰ふ。分科生の特技を見る。ボートレース、陸軍練習の為め砲車の通過、乗馬にて<sup>(アキママ)</sup> 等を見る。次長宅に帰り大学職員約五十人に引見、御茶あり。五時発にて帰る。夕食后八時三十分よりシビル・アット・デリース劇場に行く。十一時半帰る。

\* オックスフォード大学、ケンブリッジ大学などでは事実上のトップは次長Vice

Chancellor 〆、総長 Chancellor は名誉職

五月十五日 日曜 昨夜より雨 今朝小雨 午后曇 滞在 第七報を東京に出す

午前六時半起床、九時朝食。十時十五分出門、メドーバンク着。少年団整列、検閲、皇太子より御語あり。各演技を見る。司令部に着し其家を見る。午后一時チエッカー着。総理大臣ロイト・ジョージ官邸に於て午餐。土地甚た大なり。午后四時半過ぎ出発、六時十五分帰る。八時より宿舍なるチエスター・ヒルド・ハウスにて接伴員と会食。

五月十六日 月曜 快晴 滞在

午前六時半起床、八時半朝食。午前十一時皇太子と共に自動車にて出発。軍装。十一時四十五分ケンレー・エロドローム<sup>\*1</sup>航空隊に着す。工場及航空機を見る。午餐将校と会食、将校集会場の庭に天幕中にて。食后飛行を見る。共演者の熟練なること実に日本将校の及ばざることなり。宙返を数回やる。随行員中にも乗りたる者あり。

グリーンニツチ着。天文台機械見物。茶あり。夫れより海軍大学校、礼拝堂、医学校、学校内ムゼー<sup>\*2</sup>。七時三十分晩餐、兵学校内（燕尾服）。十時過ぎ自動車にて帰る。時に十一時過なり。平田燕尾服を持ち来る。皇子ヨーク親王は航空隊附なる故本日来り。

\*1 aërodrôme (仏) 飛行場 \*2 musée (仏) 海軍大学校内 Royal Naval Museum

五月十七日 火曜 晴 滞在 オルダショット行

起床六時半、朝食八時。自動車にてオルダショット野営地に行く。途中軍隊あり。又或る一道路に行くと出水して通過困難、他の道をとりに行く。十一時着、軍隊の閲兵、分列式、飛行器研究所附の飛行ぶり見物。常に大胆にして能く飛行す。集会場食事。兵学校及大学校を見る。夕食は大使館。午后十一時頃帰る。



オルダーシヨット、<sup>(ゴールドストリーム)</sup>ゴルドストリーム隊の第二聯隊閲兵、パークレーにて飛行、サンドハウスト陸軍士官学、礼式分列式、乗馬。

キャンバレー陸軍大学校各室、皇帝、海軍将校、陸軍将校、航空隊将校、カナダ将校、印度将校、濠洲将校、ニュージランド将校、南亜将校。

五月十八日 水曜 晴 倫敦出發 ケンブリッジの見物 夜出發エジンバラへ行夜行列車  
午前六時起床、八時朝食。松井、福田倫敦に残る。

午前九時十分チエスターヒルド・ハウス出發、汽車にてケンブリッジ<sup>(ケンブリッジ)</sup>に行く。十時半過ぎ着。ケンブリッジ大学次長同駅にあり。ヲックスホードの如く多くの学校を見物す。皇太子に博士称号を上る。其式を行ふ。夫人の学校も見物す。夕食は博士の会議室に於て多数と共に食事。燕尾。午後十一時ケンブリッジ出發。

\* ニューナム・カレッジ

五月十九日 木曜 曇 エジンバラ着 后小雨 エジンバラ泊 ホーリロード・パレー宮殿

起床午前六時、朝食八時。昨夜より汽車中。午前九時三十分エジンバラのウエーバーレ<sup>(ホーリロード)</sup>駅着。ホーリロード宮殿に泊る。服は昨日よりフロックなり。セントジルス寺院、<sup>\*1</sup>アドオテート図書館、裁判所、エジンバラ城見物。午餐に帰り、再びエジンバラ病院見物。市内を通過してレッドフォードに於ける歩騎兵營。騎兵は二十四騎の騎芸、飛越、歩兵營の炊事場、将校集會場にて茶。其時エコス<sup>\*2</sup>の踊を見る。晚餐の爲め市庁へ行く。ロード・プロボスト卿及市団体より(燕尾)。

\* 1 Advocates Library を<sup>(?)</sup>のように聞き取ったか? \* 2 Ecosse (仏) スコットランド

五月二十日 金曜 晴 稍寒し エジンバラ滞在 第八報を出す

午前六時半起床、九時皇太子と朝食。

十時五十分宿泊宮殿より出發(軍装)、ローヤル・ハイスクール(高等学校)觀覽、ウエーバーリー<sup>\*1</sup>駅より(昨日着駅)發にてロシス(ドックヤード)に向け行く。其途中大鉄橋フォース・ブリッジ上にて一時下車して橋を見る。其橋下を大軍艦自由<sup>(?)</sup>に通過すと。再び乗車してロシス着。海軍司令長官以下市長始めあり。同市長より歡迎文を皇太子に上る。午餐司令長官宅。工廠觀覽。サウスアームに碇泊の軍艦<sup>\*2</sup>サウセレスに乗り一周す。ポート・エドガール着。汽車にて帰り、再び皇太子へ名誉博士授与式の爲めエジンバラ大学の式場に行き、式后帰り、晚餐は城内武器庫にて中将デビス司令官の催に行き、十時過ぎ帰る。

\* 1 ロサイス (Rosyth) 軍港 \* 2 ソーサリス (Sorcass)

五月二十一日 土曜 晴 稍寒し エジンバラ出發 プレーヤ・アートル着

午前六時半起床、九時皇太子と食事。十時頃より離宮見物。十時三十分よりキングス・パークに於て<sup>(ボイスカウト)</sup>ボイスカート閲兵、皇太子より御言あり。ボイスの無線電信。十一時四十分ウエーバー<sup>(?)</sup>レー<sup>(?)</sup>駅に向ふ。ホーリロード・パレー<sup>(?)</sup>出發。司令官デビス、市長等あり。十二時出發、午後一時十五分パース着。閲兵。デユク<sup>\*1</sup>・アゾール向にあり。自動車にて<sup>\*2</sup>プレーヤ・アートルなるデユクの邸に向ふ。途中の村落の人民ブーケーを皇太子、余に送る。少女其花を自動車迄持来る。途中見物しつ、デユクの別園を見つ、其地に木を手植す。午后四時過ぎ着す。御茶あり。其后マスをつりに行き、皇太子、余一疋つゝとる。午后八時半晚餐あり。其デユクは大なる地所を持ち、まるで日本の古の大<sup>(アキマ)</sup>たるなり。

\* 1 アソール公爵 \* 2 Bar Atholl アソール公爵の居城がある

五月二十二日 日曜 快晴 稍寒し アドール邸滞在

午前六時半起床、九時皇太子と朝食。

十時過ぎより皇太子と邸内運動。午後一時半午餐。三時過ぎより自動車にて西南方向に運動に行き、五時過ぎ附近の山の上にて御茶。六時過ぎ帰り、八時より夕食。皇太子より主人に勲章、夫人に花瓶と手箱。

本日は日曜なる故エコス(習慣)のシユウカン(習慣)としては寺院に行の外は何にもなさざるなりと。然し今日は例外なりと申せり。

此のアゾール侯邸は八十八万町分あると云ふとなり。

五月二十三日 月曜 快晴 アゾール邸出發正午十二時(夜間)

午前六時半起床、九時朝食。

十時過ぎより皇太子と共に主人の案内にて一昨日の川に鱒をとりに行く。二人の娘も来る。各一尾つゝ、四人にてとる。其后自動車にて一周して帰り、午餐を為す。食后三時過ぎより夫人等と自動車にて運動に行き、一つの家の内にて御茶を呑み、六時過ぎ帰る。其家の附近の川にも鱒を多く見る。八時過ぎ晚餐。其后にスコットランドの踊を見る。甚だ面白き踊なり。夜十二時頃アゾール邸を出て駅に在る汽車に乗りて寝につく。但し汽車は明朝五時出發するなり。同邸にありし一娘も同車す。

五月二十四日 火曜 晴 午后より稍暑くなる マンチェスター着午後三時 第九報を出す

汽車中にありて午前五時駅を發す。午前六時半起床、八時半朝食。

スコットランドを出で南方に来るにつれて氣候稍暑くなりたり。午後三時マンチェスター着、市長以下司令官等あり。軍隊閱兵。通路に官民群集して甚だ盛なり。ローヤル・エキステンヂに行く(取引所)。人民集る者約一万人。其市庁に着す。同市内に泊る(マンチェスター・タウンホール)。其所にて御茶。六時三十分市長の晚餐あり。八時よりタウンホールに於てレセプ

ション。市會議員、公共団体代表者等約千名。九時に終りたり。

五月二十五日 水曜 曇 稍暑し マンチェスター滞在

午前六時半起床、九時朝食(背広)。

午前十時よりメトロポリタン・ヴィッカーズ電機工場巡覽。午後一時市長催の皇太子歡迎の爲め午餐約三百名以上、市庁内に於て。三時よりサ・ダブルユー・ジー・アームストロング・ホワイトウォース会社工場巡視(背広)、グロッセリー自動車会社工場へ巡視。六時四十五分より市長晚餐(燕尾)。八時二十五分よりマンチェスター・ピポドルーム(芝居)を見に行く。

\* Sir W. G. Armstrong Whitworth & Co. Ltd

五月二十六日 木曜 曇 午后マンチェスター出發倫敦に帰る

午前六時半起床、八時半朝食。

市庁内出發、シップ・カナル見物の爲め船に乗る(背広)。ドック、カナール視察。正午過ぎタウンホール(市庁)に帰り、一時ミッドランド・ホテルに於けるマンチェスター・シップ・カナール・コンパニーの午餐に行く(フロック)。二時三十分停車場に向ふ。二時四十五分ロンドン・ロード停車場着、三時發車。

午後七時十分倫敦キングス・クロス駅にて、クラリッチ・ホテルに泊る。

皇太子は日本大使館に泊らる。日本協会の爲め晚餐に行く、八時なり。約千名なり。十時半過ぎ帰る。

三月二十九日附智恵子の手紙を本日受取る。

五月二十七日 金曜 晴 倫敦滞在

午前六時半起床、八時朝食。

午前十時よりイートン学校見物の爲め行く。皇太子と共に。此学校は貴族の

小供多く入学す。生徒は十六、十七頃迄と云ふ。古き学校なり。午後一時半  
バッキンガム宮殿に行き両陛下及皇女及ヨーク親王と御分れ御食事あり。珍  
田、林大使も共に。其后皇太后陛下に拝謁の爲め参殿す。三時過ぎ海軍紀念  
日に付きコンノートルーム・ホテルに行く。五時三十分よりレゼント・パ  
クの植物園に於て在倫敦日本人謁見。午後八時接伴員。大使館員、領事御招  
待。

五月二十八日 土曜 晴曇 小雨 稍寒し 倫敦滞在 第十報を出す

午前六時半起床、八時朝食。午前十時過ぎより大使館に行き、陸軍大臣、参  
謀総長其他の団隊より皇太子に歓迎文を（アキママ）に来るに、余も列席せり。  
午後十二時半より接伴員の案内にて（アキママ）クラブに会食す。其後ラリン  
ピックを見に行く。夫れは各隊より出場してたくみに運動をなして人民に見  
せるなり。約二週間と云ふ。五時過ぎより日本人クラブに行き立食す。会員  
は約四百名と云ふ。八時より大使館、日本食、活動写真（皇太子の分）。  
日本人会より余に西洋茶道具を貰ふ。

\* Olympiaと称する競技館。軍人によるロイヤル・トーナメント（各種演武競技）が行わ  
れた

五月二十九日 日曜 晴 一時小雨 稍寒し 午後倫敦出発、ポーツマス着

午前六時半起床、八時朝食。十時より動物園に行き、又倫敦北方へ自動車に  
て行く。其地は稍高く、能く倫敦市を見る。又倫敦より巴里に往復する飛行  
場附近に行く。十一時過ぎ帰り、軍服に着変して大使館の午餐に行く。午後  
二時十五分大使館出発、停車場に行く。皇帝、皇太子、ヨーク親王あり、我  
皇太子を送らる。四時半ポーツマス着。直に軍艦に乗る。接伴員も大使と共  
に香取に來り、分れを為す。八時より晚餐。

五月三十日 月曜 曇 小雨 后曇 稍寒し ポーツマス出発 ルハーブル着 仏国着

午前五時半起床、六時半朝食。  
軍艦香取は午前六時よりポーツマス軍港を出発す。天候稍悪しく昨夜も雨に  
て、今朝は一とき止みたるも再び雨となり、風加わり寒くなる。為めに海上  
波稍高く甲板に來る。午后三時過ぎ仏国ハーブル港に着したり。今朝來  
ポーツマス出発のときは英国駆逐艦若干左右にありて、十時過ぎ迄來り、其  
後は仏国駆逐艦に向へられて着港せり。人民群集して港の左右にあり、又軍  
隊も敬礼の爲め來りあり。石井大使以下接伴員三名も、又州知事、衛戍司令  
官以下数名も來る。其前に於て雨大に降り、為めに人民散じたり。大使以下  
艦に來る。皆なに面会。大使夕食して帰る。

五月三十一日 火曜 小雨 曇 ルアン附近より晴 稍暑くなる ル・ハーブル出発 巴里着

午前六時半起床、七時半朝食。  
午前十時四十五分退艦、同十一時ル・アールより汽車に乗り巴里に直行、  
特別列車。同駅には儀仗兵あり。途中ルアンに数分停車す。其時師団長及聯  
隊長（余の同期生なり）（アキママ）あり、儀仗隊もある。午後三時三分ル・  
サンナザル駅に着す。官民数多ありたり。日本人、陸海軍人等ありたり。皇  
太子は大使館に、余はクリヨン・ホテル（\*2）（\*1）（\*2）（\*1）（\*2）（\*1）  
泊る。此家は平和会議中米国委員の在りし家なり。甚た美麗なり。軍服の爲  
め服屋を呼ぶ。松井外出して色々前年の屋を捜す。午後八時大使館の非公  
式の晚餐に行き、十時過ぎ帰る。

\*1サン・ラザール駅 (Gare Saint-Lazare) \*2コンコルド広場

六月一日 水曜 快晴 稍暑くなる 巴里滞在第二日

午前六時起床、七時朝食。

午前八時より平服調製の為め先年のローラン・リシャールへ行きたり。十時稍前大使館に行き、皇太子と共に文武官に面会す。其后若干の将校の講話を聞く。午后零時四十五分より大統領に面謁の為め皇太子と行く。大統領ミルランに面会、夫人にも。午餐あり、約八十名なりし。総理ブリヤン以下文武官、ジョフル、ホーシユ(フオッシユ)、ペテン(ペタン)等元帥もありたり。又先年の仏国大使たりし人も二、三名ありし。三時過ぎ帰り、ロペール靴屋、軍服屋来る。五時三十分皇太子の旅館なる大使館に答問に来るに付き、同時迄に行く。六時頃帰り、服を替てローランに行く。夕食はホテルにて一人。食后九時過ぎより自動車にて行く。松井来る。福田は大使の招によりカフェー・ド・パリへ夕飲に行く。

六月二日 木曜 曇后晴 稍暑くなる 滞在第三日

午後六時起床、七時朝食。

午前十時より\*1ソルダール・エンコニーに参拝の為め大使館に行き、皇太子と同列にて其式に臨む。十一時より在留日本人の皇太子並に余に面会来る者、約八、九十人なり。昼食に帰り、午后二時より日本に縁故ある仏国文武官に面会す。約三、四十名なり。三時過ぎ帰り、手袋屋、下衣屋、時計屋等へ行き買物す。午后八時大使館晚餐、各国大使等なり。食后セルクル\*2・エンテ・アリエに行き音楽及踊を見る。正子過ぎ帰る。

\* 1 Soldat inconnu (無名戦士の墓) エトワール凱旋門の下 \* 2 Le Cercle de L'Union

Interalliee (聯合國協会倶楽部)

六月三日 金曜 曇、小雨 后曇 滞在第四日

午前六時起床、七時朝食。

軍服屋来る。午前十時よりルーブル博物館に行き皇太子の御着を待つ。其博物館見物后、\*3マデル・デ・ゼンバーリードへ行き第一世ナポレオンの墓に参拝す。地下に行きナポレオンの使用せし劍、帽等を見る。同期生のパイヤール中佐はエンバリートの副長なり。午后八時海軍大臣ギストーの晚餐に列し、后オペラへ皇太子と共に行く。海軍大臣の案内なり。

\* Hotel des Invalides (廢兵院)

六月四日 土曜 曇 巴里滞在第五日

午前六時起床、七時朝食。

午前九時より皇太子と共に(フオンテーヌフロ)ホンテンフロ(フオンテーヌフロ)に行き砲兵学校を見る。元帥ペタン、大統領の命により案内す。将校生徒の無線電信、操砲、自動車教育材料、馬術教官の馬術等を見る。午餐はホテル。午后はホンテンフロ宮殿内に於てナポレオン(マヌ)三百年祭に参列して余興を見て、宮殿内を見物してナポレオン最後の談判の室等を見る。自動車にて約一時間と四十五分。

六月五日 日曜 曇后晴 巴里滞在第六日 第十二報を出す

午前六時起床、七時朝食。

九時よりポアー\*4・ド・ブローグエ公園に散歩、動物園に行く。戦争の為め其園の手入甚た不充分、かつ又動物も其数甚た少し。アブニュー、アカシヤ、池の周囲を一周して帰る。今日はサンシール兵学校の余の同窓会の毎年一回の会食に参列す。其席には中将コント・デ・ガレー八十五歳の老將軍會長にして、各期の代表者一名づつ、出席、見習士官の一人もありし。約六十名にして會長の歓迎文あり、余も答辭を述る。五時過ぎより大使館にて陸軍將校より独、塙(スイス)、シユイス等に付き講話を聞く。七時半より稲垣中將宅に日本食に招かれたり。九時半過ぎ帰る。

\* Bois de Boulogne (ブローニュの森)

六月六日 月曜 曇后晴 巴里滞在第七日

午前六時起床、七時朝食。

午前十時より皇太子と共にシヤンチイーに行く。<sup>\*1</sup>自動車。十一時半頃着し見物を為し、午餐は日仏協会会頭ベルタル以下会員よりの宴会に列し、后宮殿を見る。甚た美麗なり。又パルクも同じ。午后三時出発、帰巴五時稍前なり。八時大使の大統領招待の宴会に皇太子と共に余は列席す。食后大統領の招により共にヲデオン芝居に行く。米国の俳優始めて仏国巴里にて開きし者なりと云ふ。十一時半過ぎ帰る。

\*1 シヤンチイー (Chantilly) 城 \*2 ベルタン (Louis-François Bertin)

六月七日 火曜 晴 巴里滞在第八日

起床、朝食同じ。

午后〇時三十分東伯邸午餐に行く。

午后八時石井大使の宴会に行く。場所はユニラン・エンテル・アリエー。

\* パリ滞在中の東久邇宮稔彦王。皇族が海外で長期に非公式に滞在するとき、皇族待遇での接遇が続けば不便のため、表向きは華族身分を称した

六月八日 水曜 晴 巴里滞在第九日

午前六時起床、七時朝食。

午前九時過ぎより大使館に行き、皇太子とベルサイユに自動車にて行く。宮殿見物、パルク自動車にて運動。<sup>(アキママ)\*</sup>にて午餐。第一革命のをこりし

場所なるサール・ド・ジュー・ド・ポームを見る。三時頃帰り、午后五時半に日仏協会員より案内にて其席に行き、ベルタル病気の為め代理者より歓迎の辞をうけ、余より挨拶の言を述る。会する者男女仏人約二百名、立食あ

り踊あり。夕食后皇太子とヲペラへ行く。其時ミモラン氏(かつてツールの聯隊附のとき中尉でありし人なり)同芝居にありて面会す。ルーバ將軍も午前中に来り面会す。

\* トリアノン・パレス・ホテル

六月九日 木曜 晴 巴里滞在第十日

起床、朝食前日に同じ。

午前中は室にありて、午餐后大使館に行き将校の講話(土耳其、小亜細亜)を聞き、独国兵器、飛行器用写真器等なり。帰途公園一周して帰る。夕食はホテルにて為す。

六月十日 金曜 曇 途中より小雨 巴里出発白国に行く 午后五時五分ブリュクセル着

起床、朝食前日に同じ。

コント・グランメーゾン(同期生)来り面会す。彼より来月二日に午餐の招きをうく。

正午発にて皇太子と白国に向け出発す。汽車中食事。午后三時五分仏白国境に來り、仏接伴員はヒーギー<sup>\*1</sup>駅にて下車。白接伴員、安達大使はモンズ<sup>\*2</sup>駅に迎へられたり。五時十五分白国都ブリュクセル<sup>(ブリュクセル)</sup>安着。国王陛下、皇太子と來られ、我皇太子を迎えらる。閱兵。儀装馬車にて騎兵左右を警戒しつ、王宮に入る。人民群衆歓迎あり。宮殿にては皇后陛下に拝謁あり。宮殿内なるホテンブローと申す室に泊る。七時半より宮殿内大饗宴、百二、三名なり。ブリュクセル着の時も小雨。

\*1 フェイニー (Feytales) のことか? \*2 安達峰一郎

六月十一日 土曜 晴 ブリュクセル滞在 昨日東京智恵子より手紙着

午前六時起床、七時朝食。

午前十一時より先帝の墓に参拝。ラーケン離宮温室内にて（有名なる者なり）午餐あり、兩陛下御出席、食后陛下と共に博物館を見に行き、帰りて総理の晩餐に行く。

\* ラーケンのノートルダム教会

六月十二日 日曜 晴 フリュクセル滞在 東京へ第十二報手紙出す

午前六時起床、七時朝食。

午前にワートルロー古戦場見物。正午宮中御食事。午后兩陛下と共に馬のキョーシン会（共進）に行く。

夕食、大使館レセプション。

六月十三日 月曜 曇 フリュクセル滞在 白・英軍の戦線実視

午前五時半起床、六時半朝食。

午前七時四十五分発にて戦場見物のため出発。（オステンント）ラストアント着、十時頃自動車にて独軍の海岸防禦の設備、砲台等を見つ、ニユポール、ベン（最）なるサイ左翼の防禦（白軍）工事を見る。左岸は白軍、右岸は独軍。ニユポール駅列車内にて午食。再び自動車にてジキスミユード（ディクスミユード）、附近陣地、森林は皆無し。白軍・独軍の工事を見つ、イーブル市に行く。英軍の戦場。市の家は殆んど全き者なく破られたり。独の長距離砲を見る。午後八時三十五分ガ（最）ン発にて帰る。

\* 1 ブールネ (Veurne) か? \* 2 ヘント (Gent)

六月十四日 火曜 晴 フリュクセル滞在

午前六時起床、七時朝食。

午前十時頃より汽車にてアンベルス行、十一時過着。同港を船にて見物す。其盛なること、船数多あり。アンベルス市のヲテル・ド・ビール（最）に行く。寺（最）

院にも行く。ブリュクセル着。五時過ぎより日白協会へ行く。六時に宮中に再び行き、陛下に御礼、御告を申す。六時半イスパニヤ大使、皇太子の旅館に来る。

七時国王陛下旅館に来らる。八時旅館に於て安達大使の催の宴会に列す。約三百名なり。

\* 1 Anvers (仏) アントワープ \* 2 Hotel de Ville (市庁舎) \* 3 ルーベンスの絵画でも有名な聖母大聖堂

六月十五日 水曜 晴 フリュクセル発、アムステルダム着 和蘭着

午前六時起床、七時朝食。

午前中は室にあり、十一時に午餐を為し、十二時四十五分発にてアムステルダムに向ふ。午後一時四十五分和国第一の駅に着し、接伴員四名来る。田付（最）公使も同行す。午後五時四分アムステルダム着。皇族（アキママ） \* 2 殿下諸官をつれ同駅にあり。儀装馬車。騎兵隊儀仗として馬車の前後にあり。道路には

人民群集して歓迎甚た盛なり。王宮着。女王陛下に拝謁す。諸大官に面会し、女王陛下と共に皇太子及余バルコンに出る。群衆宮殿前の広場に集りあり、歓迎を為す。余に勲章を賜わる。午後八時より宮中大宴会。終りて室に帰る。十一時過なり。皇太子、余は宮中に泊る。

\* 1 田付七太 \* 2 ウィルヘルミナ女王の配偶者 (Prince Consort) ハインリヒ

六月十六日 木曜 晴 アムステルダム発、ラ・ヘー着

午前六時起床、七時半朝食。

午前十時半より自動車にて市内あるダイヤモンド製（造）ゾー所を見る。帰りて礼装になりて女王陛下及皇族と共に皇太子と午餐を為す。午後一時半より市内を自動車にて運動してミュゼを見る。市の歓迎会、ヲテル・ド・ビール無き

為め、ブルスにて施行せり。<sup>\*1</sup>

午后四時過ぎ汽車にてラ・ヘーに出発。六時半頃着し、燕尾に着変して皇太后陛下の夕食に行く。此食事もファミーの食事にて、皇太后陛下、皇族、皇太子、余のみ。食后外務大臣のレセプションに行き、十一時半帰る。宮殿内に泊る。

\*1 Bourse (株式取引所) \*2 La Haye (仏) デン・ハーグ

六月十七日 金曜 晴 ラ・ヘー滞在

午前六時起床、七時半朝食。

王宮附属の厩を皇族の案内にて見物す。十時より Maison du Bois et a l'Hotel de la Cour permanente d'Arbitrage を見物、並に皇族の案内にてワランダ赤十字社に行き社長<sup>(アキマ)</sup> 及皇族が総裁なる故に、余にワランダ赤十字紀章を貰ふ。松井も同じ。午餐は三人。皇族と皇太子及余のみ。午后一時より自動車にてロテルダム<sup>(浮)</sup>に行き、其港を見物す。其規模の大なること、又船の多数なること、うきドックの大なる者五万トンの船を入れること容易なると云ふ。ワテル・ド・ビールに行く。新築の為め甚た美麗なり。晚餐は女王陛下、皇太后陛下、皇族と我皇太子、余、其他約六十名。ザール・ガल्ली。

\* Maison du Bois はハウステンボス宮 (Paleis Huis ten Bosch) のこと。Cour permanente d'Arbitrage 常設仲裁裁判所で、国際司法裁判所などともに、平和宮内にある

六月十八日 土曜 曇 ラ・ヘー滞在 王宮よりホテル・シャトー・ウッド・ワスナーエに移る

午前六時起床、七時半朝食。

午前十時半女王陛下に拝謁して御別を申し上げ、御写真を賜わり、私の写真を献上す。后ち皇太后陛下に拝謁す。昨夕御足を挫かれたる為め、椅子により

たるままにて拝謁せり。其后郊外なるホテル・シトウ・ウッド・ワスメエールと云ふに泊る。閑静なる、前に池あり、周囲は森林なり。午餐は公使館、日本食事。帰りに徒歩散歩す。午后八時の食事の為め、公使館のスケベニング<sup>(スヘフェニング)</sup>に行く。

\* Hotel Kasteel Oud Wassenaar

六月十九日 日曜 晴稍曇 ラ・ヘー滞在

午前六時起床、七時半朝食。

午前九時半より公使館二見書記官と留学生一名と福田とで自動車にて散歩、スケベニングに行き、其后或る地の海岸に行きて、ラ・ヘーの低きことを見る。十一時過ぎ帰る。午后一時に皇太子殿下旅館に來られ、共に食事す。入江、田付公使陪席す。二時過ぎより徒歩にて<sup>(アキマ)</sup>の別邸<sup>\*1</sup>(旅館の近く)に行き、五時稍前帰る。午后七時半よりホテル・デ・ゼンド<sup>\*2</sup>に行き晚餐に列す(皇太子催)。

\*1 ロッテルダムの実業家ファン・オメルン (Van Ommeren) \*2 Hotel Des Indes 皇太子が宿泊する

子が宿泊する

六月二十日 月曜 曇 稍寒し ラ・ヘー出発 パリー着

午前五時起床、朝食は汽車中。

午前七時五分前にホテル出発、七時三十分ラ・ヘー駅出発す。宮中より宮内官、外務大臣其他数名あり。途中ルーベン(ベルギー)に下車して独軍の同市の砲撃並に破壊の景況を見る。再び乗車、リエージュに下車してロンジン<sup>(ロンサン)</sup>砲台に行き、其砲台の指揮官たりし軍人より戦鬪の講話あり。同市に於て歓迎会あり。同市の人民は群集して皇太子を迎ふ。午后三時リエージュ出発にて、午後八時半ガール・ド・ノール<sup>\*</sup>着、巴里に帰る。途中サン・カンタン附

近は破壊の景況甚だしきを見る。

\* Gare du Nord (パリ北駅)

六月二十一日 火曜 小雨、曇 稍寒し 巴里滞在 東京へ手紙第十三報を出す

午前六時起床、七時半朝食。

午前八時より洋服屋ローラン・リシャールへ行く。帰途靴屋及杖、傘を買ふ。午后上院及下院を皇太子と共に見に行く。軍服屋も午前中に来る。午后五時散髪す。

六月二十二日 水曜 曇 稍寒し 午後九時五十分巴里出發 ストラスブルグに向ふ汽車中

午前六時起床、七時朝食。

八時より洋服屋ローラン・リシャールへ再び行き、冬外套を合し冬服を注文す。大使館へ行き皇太子と共にセーブル陶器製造場を見る。正午帰る。午后は出發準備。午後九時五十分ガール・エスト出發にてストラスブルグに向ふ。(ペタン)<sup>(ペタン)</sup>元帥も同行す。

\* Gare de l'Est (パリ東駅)

六月二十三日 木曜 曇 午前十時着ストラスブルグ 午後六時出發 九時過ぎメッツ着

午前五時半起床、八時皇太子と朝食す。

午前八時頃仏独の旧国境を通過す。旧独国は立地豊饒にして工作甚た可なり。農民は独も仏もカンケイなく勉む。十時ストラスブルグ駅着。直に練兵場に行き、騎兵聯隊の乗馬演習(約二、三ヶ月入営の者もあると云ふ)、重砲、タンク等を実視す。正午コンミシヨール・ゼネラル宅にて午餐。午后大<sup>\*1</sup>学、ミューゼー、化学科等を見物して汽車に帰り、六時出發。夕食后九時過ぎメッツ着。Grand Hotelに泊る。甚たよくないホテル。

レン河を船にて下り、再び自動車にて帰る。途中各村落にて農民歓迎、村長<sup>\*2</sup>

歓迎文を読み、又酒茶を献す。

\* 1 Commissaire general \* 2 一行はストラスブルグ大学を見学後、ライン河を船で下り、

ガンブスハイム村にて上陸したところ村民の大歓迎を受けた

六月二十四日 金曜 晴 暑くなる メッツ滞在

午前六時起床、七時半朝食。

九時より自動車にて演習場に行き、歩兵とタンク隊との連合演習を見る。分列式あり。カテドラル見物。Gouverneur Militaire<sup>\*2</sup>の宅にてペタン元帥より食事。工場見物。七十年戦場センプリバ附近見物してメッツに帰り、ホテルにて元帥以下と食事。同期生なる Colonel Bore Verrier<sup>\*3</sup>に面会す。彼より同期生の名ボを貰う。

陸軍大臣<sup>(アキマ)</sup><sup>\*3</sup> 今朝着。参謀総長同所演習を皇太子と見て、夕刻パリーに帰る。

\* 1 サン・テティエンヌ大聖堂 \* 2 メツス衛戍司令官 \* 3 普仏戦争の戦跡サン・プリ

ヴァ (Saint-Privat) \* 4 ルイ・バルトウー

六月二十五日 土曜 快晴 暑し メッツ出發 ベルダン着 夜半巴里着

午前五時半起床、六時半朝食。

七時三十分の汽車にてメッツ出發、九時過ぎ着ベルダン。自動車にて直に戦場実視に行く。元帥ペタン案内す。午前中はムーズ河の右岸の諸砲台、Fort de Vaux<sup>\*</sup>に行き、見るに甚た破壊されたること多く、其隠蔽部に仏軍隊数百名残りしも、なをよく独軍の其入口に来るときに於ても攻勢をとりし。然し数日の后には糧食、水等つきて小便迄も呑んで抵抗せしも、ついに力尽きて降参せしと云ふ。村落の如きも全部なき所あり。実に悲惨なる実況なり。午后は左岸の戦場、独皇太子の観測所等を見る。夕刻七時列車に帰り出發す。



十一時過ぎ巴里着。クリヨンホテルに入る。

\*ヴォー要塞

六月二十六日 日曜 晴 暑し 巴里滞在

午前六時半起床、七時半朝食。

九時過ぎより<sup>\*</sup>トロカデロー、ボアに運動、自動車。午後大統領ミルランより招により、本日ロンシャンに於て今年の大競馬の日なるにより、皇太子と共に出席。大統領の機敷に於て見物せり。三時より四時半頃迄なり。場内は殆んど満員にて甚た盛なり。本年は婦人の日傘は日本の日傘の方を使用する。又服は甚た短し。本年は仏国馬でなく、英国馬が第一等賞を与へられたり。

\*自動車にてトロカデロー広場を経てブローローニユの森を見物したのであらう。

六月二十七日 月曜 快晴 巴里滞在

午前六時起床、七時半朝食。

午前中は室内にあり、午後一時半西班牙大使館に於て、国王陛下昨夕英国より巴里に着せられたるにより、我皇太子は此時期に於て西国陛下に面会を求められたるにより、西国陛下より午餐の御招きあり。余も同行して初めて拝謁せり。

六月二十八日 火曜 曇晴 小雨少々 巴里滞在

午前六時起床、七時半朝食。

午前九時半過ぎ皇太子と共にサンクルー万国度量衡事務局参観、メートル尺の基尺を見る。八メートルの地下室に金庫の中に入れある。一ミリの百分迄の誤差を知る器械あるなり。午餐はホテル。午後ソルボンヌの皇太子の為めレセプション。歓迎の辞あり。各室巡覧す。

六月二十九日 水曜 晴 巴里滞在 戦場実視アルペール、モンヂエ工

午前五時半起床、六時半朝食。

午前八時五分 Gare du Nord 駅発にて(特別列車)午前九時五十五分アルペール着。第三軍団長<sup>(アキママ)</sup>あり、余より一年古参なり。自動車にて

La Boissell, Pozières, Thiepval, Grandcourt, Miramont, Beaucourt, Hamel, Albert. アルペール 駅内食堂車にて午餐。午后再び自動車にて Maricourt, Guilmont, Combres (Bois des Trones), Bouchavenes, Peronne (Hôtel de Ville), Biaches, Dompierre, Chuignes (Canon Allemand de 780), Traverée de plateaux de Flaucourt, Proyard, Foucaucourt, Chaulnes (Visite), Roye, Mondrier. 午後七時モンヂエ発。午後八時五十分巴里着。案内として元帥 Franchet d'Espèrey, Commandant Thler (État-major), L. C. Ajirand (État-major). 少佐のみ元帥と来る。

\*ドイツ軍の重カノン砲。「大ベルタ砲」とする記録もある

六月三十日 木曜 曇小雨 巴里滞在

午前六時起床、七時半朝食。

午前中は内にあり、十二時三十分陸軍大臣バルツ、皇太子を午餐に招く。余も出席す。同婦人以下約二十名、各元帥あり、参謀総長ビュアー。

午後ポリテクニク学校を皇太子と共に見に行く。

\*エコール・ポリテクニク